

令和6年度
多摩市
男女平等・男女共同参画に関する
市民意識及び実態調査
報告書

令和7年12月
多摩市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の対象.....	3
3. 調査方法と回収結果	3
4. 調査項目	3
5. 報告書の見方	5
II 調査結果の要約.....	7
III 調査結果.....	15
1. 回答者のプロフィール	17
(1) 性別	17
(2) 年代	17
(3) 家族構成（同居）	18
(4) 結婚について.....	18
(5) 夫婦の働き方.....	19
(6) 子どもの有無.....	20
(7) 未子の成長段階	20
2. 男女平等・男女共同参画について	21
(1) 分野別の男女の地位の平等感.....	21
(2) 性別役割分担意識	24
(3) 女性が職業をもつことについて.....	26
(4) 学校における教育について.....	29
(5) 男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度.....	30
3. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	31
(1) 希望するワーク・ライフ・バランス	31
(2) 実際のワーク・ライフ・バランス.....	32
(3) 男性の家事への参加について	33
(4) 女性リーダーの進出について	34
(5) 実現のための重要施策.....	35
4. あなたの日頃の生活について.....	36
(1) 夫婦の役割分担	36
(2) 日常生活での悩みや不安について	40
(3) 多摩市の相談窓口への要望.....	41
(4) 新型コロナウイルスによる影響.....	42
5. 暴力（DV）などについて	44
(1) 暴力を受けた経験	44
(2) 暴力を受けたときの相談相手	48

(3) 相談をした時のエピソード	49
(4) 相談しなかった理由	50
(5) 暴力の防止や被害者支援のための施策	52
6. あなたの仕事・職場について	54
(1) 職業について	54
(2) 働き方	55
(3) 非正規雇用で働く理由	56
(4) 仕事上の悩み	57
(5) 職場での性別による差別	58
(6) 働いている理由	60
7. 性の多様性について	62
(1) 自分の性のあり方について	62
(2) 身近な人について性のあり方について	62
(3) 多様な性を認め合う社会をつくるための取り組み	63
8. 男女平等・男女共同参画を進める市の施策について	64
(1) 条例や制度等の認知度	64
(2) 「TAMA女性センター」の認知・利用について	65
(3) 「TAMA女性センター」への要望	66
(4) 「TAMA女性センター」の名称について	67
(5) 災害に強いまちづくりに必要なこと	68
(6) 多摩市が推進する施策の力点	69
9. 男女平等・男女共同参画のご意見について	70
【参考】 調査票	71

I 調査の概要

1. 調査実施の目的

多摩市民の男女平等・男女共同参画に関する意識及び実態について調査を行い、課題及び問題点を把握し、第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画（中間見直し版）策定のための資料とする。

2. 調査の対象

多摩市内在住の満18歳以上の男女1,500人（住民基本台帳をもとに性別を層化し、等間隔無作為抽出）（令和6年12月10日現在）

3. 調査方法と回収結果

調査方法：アンケート調査票を郵送配布・郵送回収（※郵送回答の他、二次元コード読み取りによるWEB回答を合わせて実施）

調査期間：令和7年1月9日（木）～1月31日（金）

<回収状況>

	発送数	有効回収数	有効回収率
全数	1,500	479	31.9%
女性	750	258	34.4%
男性	750	205	27.3%
その他	－	3	－
無回答	－	13	－

4. 調査項目

★ R6に新しく追加した質問

調査項目	設問のねらい	調査内容	R6 調査	R1 調査	H27 調査
1 回答者のプロフィール	男女別、年代別等のクロス集計に係る属性指標	F1 性別	○	○	○
		F2 年代	○	○	○
		F3 家族構成（同居）	○	○	○
		F4 結婚について	○	○	○
		F4-1 夫婦の働き方	○	○	○
		F5 子どもの有無	○	○	○
		F5-1 未子の成長段階	○	○	○

調査項目	設問のねらい	調査内容	R6調査	R1調査	H27調査
2 男女平等・男女共同参画について	過年度調査との比較による意識の変化及び男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度をみる	問1 分野別の男女の地位の平等感	○	○	○
		問2 性別役割分担意識	○	○	○
		問3 女性が職業をもつことについて	○	○	○
		問4 学校における教育のあり方について	○	○	○
		問5 男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度	○	○	—
3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	ワーク・ライフ・バランスの実態、認識等をみる	問6 希望するワーク・ライフ・バランス	○	○	○
		問7 実際のワーク・ライフ・バランス	○	○	○
		問8 男性の家事への参加について	★	—	—
		問9 女性リーダーの進出について	★	—	—
		問10 実現のための重要施策	○	○	○
4 日頃の生活について	日常生活の各場面における役割分担の実態等を探る	問11 夫婦の役割分担	○	○	○
		問12 日常生活における悩みや不安について	★	—	—
		問13 多摩市の相談窓口への要望	★	—	—
		問14 新型コロナウイルスにおける影響	★	—	—
		問15 生活上の悩みや困りごとについて	★	—	—
5 暴力(DV)などについて	暴力の実態を把握する	問16 暴力を受けた経験	○	○	○
		問16-1 暴力を受けたときの相談相手	○	○	○
		問16-2 相談したときのエピソード	★	—	—
		問16-3 相談しなかった理由	○	○	○
		問17 暴力の防止や被害者支援のための施策	★	—	—
6 仕事・職場について	就業実態、職場環境等を探る	問18 職業について	○	○	○
		問19 働き方	○	○	○
		問19-1 非正規雇用で働く理由	○	○	○
		問19-2 仕事上の悩み	○	○	○
		問19-3 職場での性別による差別	○	○	○
		問19-4 働いている理由	○	○	—
7 性の多様性について	性の多様性に対する認識・理解・意識を探る	問20 自分の性のあり方について	★	—	—
		問21 身近な人についての性のあり方について	★	—	—
		問22 多様な性を認め合う社会をつくるための取り組み	★	—	—

調査項目	設問のねらい	調査内容	R6調査	R1調査	H27調査
8 男女平等・男女共同参画を進める市の施策について	男女平等・男女共同参画を進める市の施策へのニーズ等をみる	問23 条例や制度等の認知度	★	-	-
		問24 「TAMA女性センター」の認知・利用について	○	○	○
		問25 「TAMA女性センター」への要望	○	○	○
		問26 「TAMA女性センター」の名称について	○	○	-
		問27 男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりに必要なこと	○	○	○
		問28 多摩市が推進する施策の力点	○	○	○
9 男女平等・男女共同参画についてのご意見	男女平等・男女共同参画についての要望や意見を把握する	男女平等・男女共同参画施策への意見	○	○	○

5. 報告書の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・性別の選択肢「その他」の回答数が「3」であったため、報告書中の性別に係るグラフ集計においては、全体数には計上されているが「その他」としての掲載は、「基本属性(1)性別」の箇所以外では行っていない。これは回答の傾向をみるにあたり、十分な母数に達さなかったためである。

Ⅱ 調査結果の要約

1 男女平等・男女共同参画について

<分野別の男女の平等感>

◇学校教育の場で「平等になっている」の割合が最も高い。

◇「家庭生活」「法律や制度の上」「政治の場」における平等感の男女の認識の違いが大きい。

分野別の男女の平等感で、「平等になっている」が最も多いのは、「学校教育の場」で43.8%である。

『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）について、女性と男性の認識の違いが大きいものとして「家庭生活」で女性が63.6%に対して、男性は35.2%、「法律や制度の上」で女性が63.2%に対して、男性は40.5%となっている。また、「政治の場」でも「男性の方が非常に優遇されている」について、女性と男性の認識の違いが大きく、女性が51.9%に対して、男性は29.8%である。

<性別役割分担意識>

◇固定的性別役割分担の考え方については、男性の方が女性より反対の比率が低く、固定的性別役割分担の考え方が根強く残っていることがうかがえる。

◇結婚や出産の自由、同性婚、選択的夫婦別姓制度に対する考え方については、男性より女性の賛成の比率が高い。

固定的性別役割分担の考え方である、「男は男らしく、女は女らしくあるべきだ」について、女性は『反対』が63.5%であるのに対し、男性は『賛成』が55.6%となっている。「男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい」は、『賛成』が男女ともに9割以上である。加えて、結婚や出産の自由、同性婚、選択的夫婦別姓制度に対する考え方については、いずれも女性の『賛成』の回答が多くなっている。

<女性が職業をもつことについて>

◇就業継続型がよいとする回答が約6割で、前回調査よりも増えている。

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）が60.1%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（出産退職・再就職型）が19.2%となっており、女性、男性ともに同様の傾向がみられる。前回調査（令和元年度）と比較してみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）は、女性、男性とも15ポイント前後高くなっている。

<男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度>

◇「ジェンダー」や「LGBTQ+」は内容までの理解がある程度進んでいるが、「SOGIE」について

は認知度も低い。

男女平等、性的少数者等に関する言葉で「内容まで知っている」が最も多いのは、「ジェンダー」で63.7%、次いで「LGBTQ+」が43.8%である。それ以外の言葉は「知らない」が最も多く、特に、「SOGIE」を「知らない」は81.0%である。

2 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

<ワーク・ライフ・バランス(希望・現実)>

◇ワーク・ライフ・バランスの希望と現実がやや乖離している。

希望するワーク・ライフ・バランスは、男女ともに『『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい』が最も多く、3割以上である。一方、現実では、女性は『『家庭生活』を優先している』が32.6%で最も多く、男性は『『仕事』と『家庭生活』をともに優先している』が29.8%で最も多いが、『『仕事』を優先している』も25.4%と多くなっている。

<ワーク・ライフ・バランス実現のための重要施策>

◇ワーク・ライフ・バランス実現のためには、介護・育児休業が取得しやすく、復職しやすい職場環境やテレワークなど多様な働き方の推進が求められている。

「介護休業・育児休業が取得しやすく、復職しやすい職場環境を整えること」が41.5%と最も多く、次いで「フレックスタイムやテレワークなど多様な働き方が広がること」が39.7%、「職場での男女の昇進・待遇の格差をなくし、雇用の機会均等を推進すること」が37.6%となっている。

3 日頃の生活について

<夫婦の役割分担>

◇「家庭の重大事項の決定」における「夫と妻と同程度」の割合が最も高い。

◇「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」等で男女の役割の認識に違いがみられる。

「家庭の重大事項の決定」における「夫と妻と同程度」が56.2%で最も多くなっている。男女別では「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」「掃除」「買い物」「子どもの教育」においては、女性と男性で役割の認識に違いがみられ、女性の方が上記の役割について「妻の役割」、「どちらかといえば妻の役割」と認識していて、男性は「夫と妻と同程度」、「どちらかといえば妻の役割」と認識している割合が高い。

<日常生活での悩みや不安の相談先>

◇相談先で最も多いのは「家族」、ついで「友人」である。

日常生活での悩みや不安は「家族に相談する」が74.1%で最も多く、次いで「友人・知人に相談する」が48.4%、「インターネットで調べたり、SNS等へ書き込む」が38.2%となっている。

<新型コロナウイルスによる影響>

◇新型コロナウイルスにより、人との交流や外出の機会が減るなどの影響が続いている。

◇男性では女性よりテレワークなど働き方が柔軟になったという回答の割合が高い。

「友人・知人との交流が減った」が41.5%で最も多く、次いで「旅行や外出の機会が減った」が37.6%、「テレワークやフレックスタイム制など、働き方が柔軟になった」が15.9%となっている。「テレワークやフレックスタイム制など、働き方が柔軟になった」は、女性より男性の方が10ポイント高くなっている。加えて、上位2項目である、「友人・知人との交流が減った」と「旅行や外出の機会が減った」は、女性の方が男性より10ポイント前後高くなっている。

4 暴力(DV)などについて

<暴力を受けた経験>

◇いずれかの『暴力を受けた経験がある』と答えた人は全体で3割台半ば近くである。

◇男女とも「大声でどなられた」経験が最も多い。

『暴力を受けた経験がある』（「何度もあった」と「1・2度あった」の合計）のうち、「大声でどなられた」が24.7%で最も多く、次いで「何を言っても長時間無視され続けた」が13.7%、「なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた」が10.5%となっている。

なお「大声でどなられた」経験（「何度もあった」と「1・2度あった」の合計）が、女性で29.4%、男性で17.7%で、ともに最も多い。またいずれかの『暴力を受けた経験がある』と答えた人（※すべての選択肢においてひとつでも「何度もあった」「1・2度あった」を回答した人）は全体で33.3%となっている。

<暴力を受けた時の相談相手、相談しなかった理由>

◇相談相手では、「どこにも相談しなかった(できなかった)」が最も多い。

◇相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、男性では「どこ(だれ)に相談していいかわからなかった」という回答が前回調査よりも増えている。

暴力を受けた時、「どこにも相談しなかった(できなかった)」が50.7%で最も多く、次いで「家族・親戚」が18.5%、「友人・知人」が17.8%となっている。

相談しなかった理由では、「相談するほどのことではないと思ったから」が43.2%で最も多く、女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「相談して

も無駄だと思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」で、男性より回答率が高い。男性では、相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」は、男性の回答率が女性よりも高い。

なお、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」は前回調査（令和元年度）と比較してみると、男性の回答率が約9ポイント上がっている。

5 仕事・職場について

<仕事上の悩みや、職場での性別による差別について>

◇仕事上の悩みでは、女性では「賃金・諸手当が少ない」、男性では「労働時間が長い」が最も多くなっている。

◇職場での性別による差別は「とくに性別による差別はない」が最も多い。

仕事上の悩みでは、「賃金・諸手当が少ない」が31.9%で最も多く、次いで「とくに悩みや不満はない」が26.3%で、「人間関係がむずかしい」が20.7%となっている。女性では「賃金・諸手当が少ない」が37.1%となっており、男性では「労働時間が長い」が26.7%となっている。

職場での性別による差別について、「とくに性別による差別はない」が57.0%で最も多く、次いで「男女で昇進・昇格の機会に差別がある」（10.0%）、「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」（8.4%）となっている。

6 性の多様性について

<多様な性を認め合う社会をつくるための取り組み>

◇「学校における性の多様性を理解するための教育」が必要とされている。

自分の性のあり方について悩んだことが「ある」割合は2.9%で、身近に性のあり方について悩んでいる人が「いる」割合は4.8%である。

多様な性を認め合う社会をつくるための取り組みでは、「学校における性の多様性を理解するための教育」が52.0%と最も多く、次いで「同性婚の法制化を進める」が33.0%、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が27.8%となっている。

7 男女平等・男女共同参画を進める市の施策について

<男女平等に関する条例や制度等の認知度>

◇各取組について「知らない」が6割以上と認知度は低い。

「多摩市男女平等参画に関する苦情処理制度」において「知らない」は、78.9%、「男女平等・

男女共同参画情報誌『たまの女性』において「知らない」は、71.8%となっている。

<「TAMA女性センター」の認知・利用および要望について>

◇「知らない」が全体で約7割と認知度は低い。

◇「TAMA女性センター」における運営では、「女性の職業能力開発・就業・起業などを支援すること」が要望されている。

「TAMA女性センター」の認知・利用について、女性で64.3%が「知らない」と回答し、特に男性では「知らない」が多く、78.0%となっている。

「TAMA女性センター」の運営への要望としては「女性の職業能力開発・就業・起業などを支援すること」が22.8%で最も多く、次いで「男女平等・男女共同参画に取り組むグループの活動や交流を積極的に支援すること」(19.6%)、「男女平等参画に関する講座やイベントを充実すること」(19.4%)、「女性の視点にたった相談事業を充実すること」(19.4%)となっている。

<多摩市が推進する施策の力点について>

◇学校における男女平等意識の醸成や、困難な状況に置かれている方への支援などの施策に力を入れることが求められている。

「学校で男女平等に関する授業を実施したり、男女平等について考える機会をもつ」が49.1%で最も多く、次いで、「困難な状況に置かれている方（ひとり親、高齢者、障がい者、生活困窮者など）への支援などを行う」が46.1%、「多様な保育サービスや子育てを地域で支えあうネットワークづくりをすすめる」が31.5%となっている。

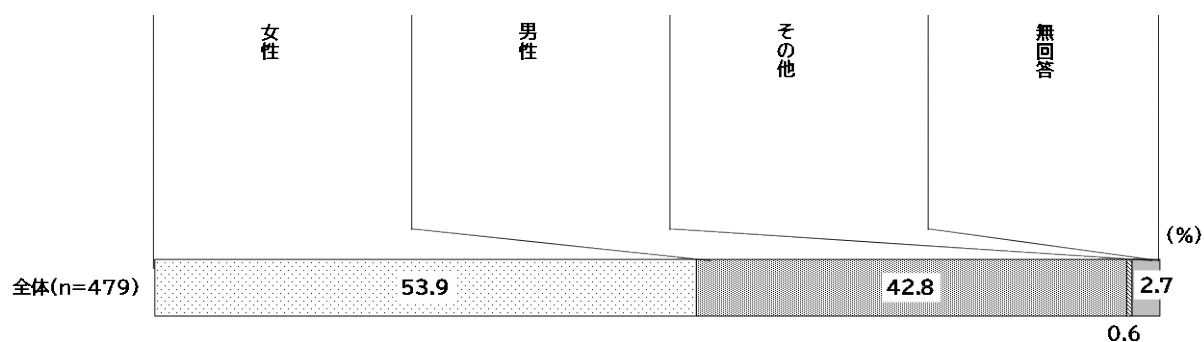
Ⅲ 調査結果

1. 回答者のプロフィール

(1) 性別

女性が5割台半ば近く（53.9%）で男性の4割強（42.8%）を上回り、「その他」・「無回答」は計3.3%となっている。

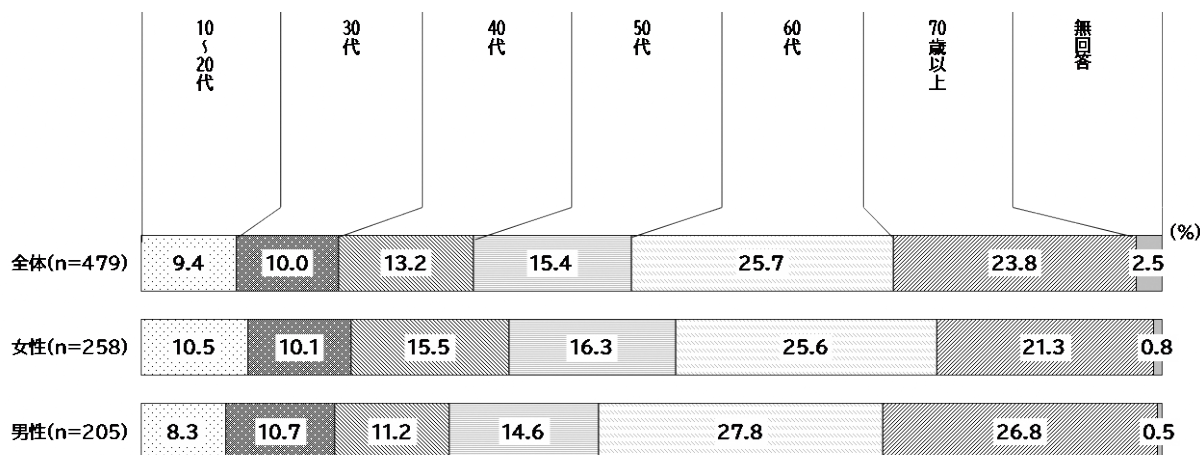
図 1-1 性別【全体】



(2) 年代

60代が最も多く2割台半ば（25.7%）を超えており、ついで70歳以上が多く、2割台半ば近く（23.8%）となっている。性別にみると、女性、男性とも60代が最も多く、女性は25.6%、男性は27.8%となっている。

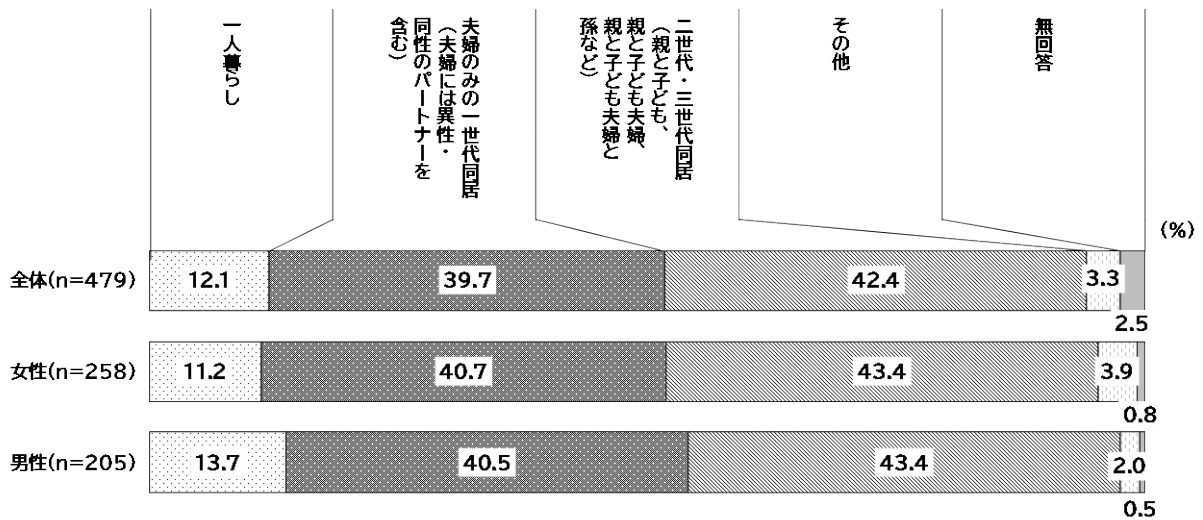
図 1-2 年代【全体・性別】



(3) 家族構成 (同居)

「二世世代・三世世代同居 (親と子ども、親と子ども夫婦、親と子ども夫婦と孫など)」が最も多く、4割強 (42.4%) である。次いで、「夫婦のみの一世代同居 (夫婦には異性・同性のパートナーを含む)」が多く、全体で4割弱 (39.7%) となっている。性別にみると女性と男性ともに同様の傾向となっている。

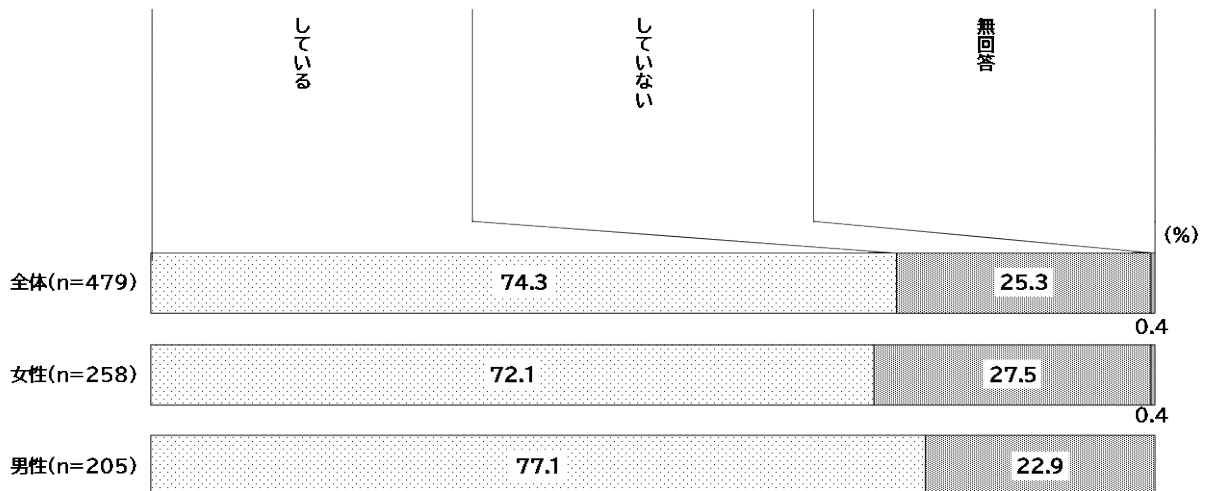
図 1-3 家族構成 (同居) 【全体・性別】



(4) 結婚について

「結婚している」が多く、全体で7割台半ば近く (74.3%)、女性は7割強 (72.1%) で、男性は7割台半ばを超えている (77.1%)。

図 1-4 結婚について 【全体・性別】



(5) 夫婦の働き方

「共働きである」が4割台半ばを超え(46.1%)で、最も多くなっている。性別にみると女性、男性ともに「共働きである」が最も多く、女性は5割強(51.6%)、男性は4割強(42.4%)となっている。また、「一方(夫または妻、パートナー)だけが働いている」は、女性よりも男性の方が多く約3割(30.4%)である。

性別及び年代別にみると、女性は70歳以上を除いて「共働きである」が最も多く、10-20代が100%、30代が8割台半ば(85.0%)で続いている。男性は10-20代、60代、70歳以上を除いて「共働きである」が最も多くなっており、30代が8割台半ばを超え(86.7%)で、40代が8割近く(78.9%)である。

図 1-5-1 夫婦の働き方【全体・性別】

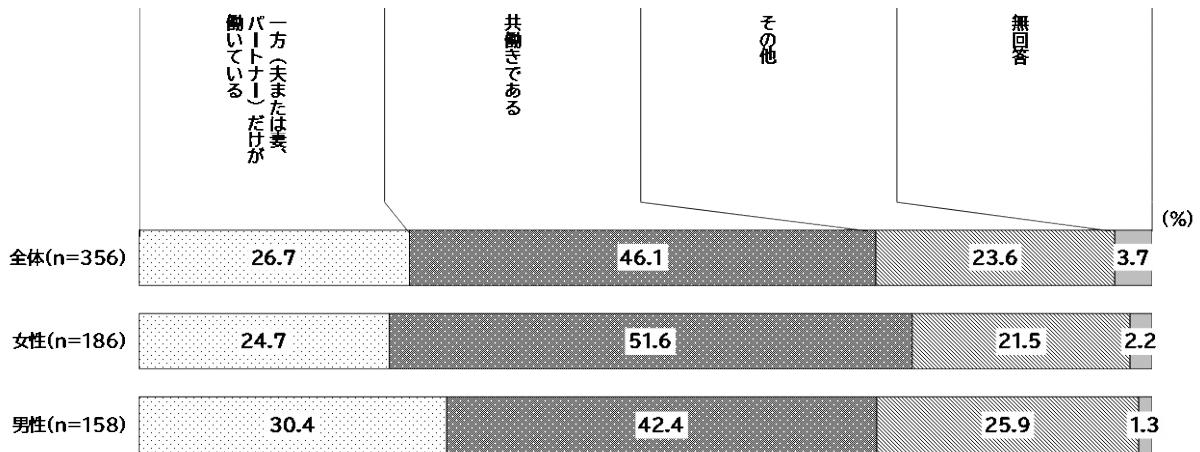
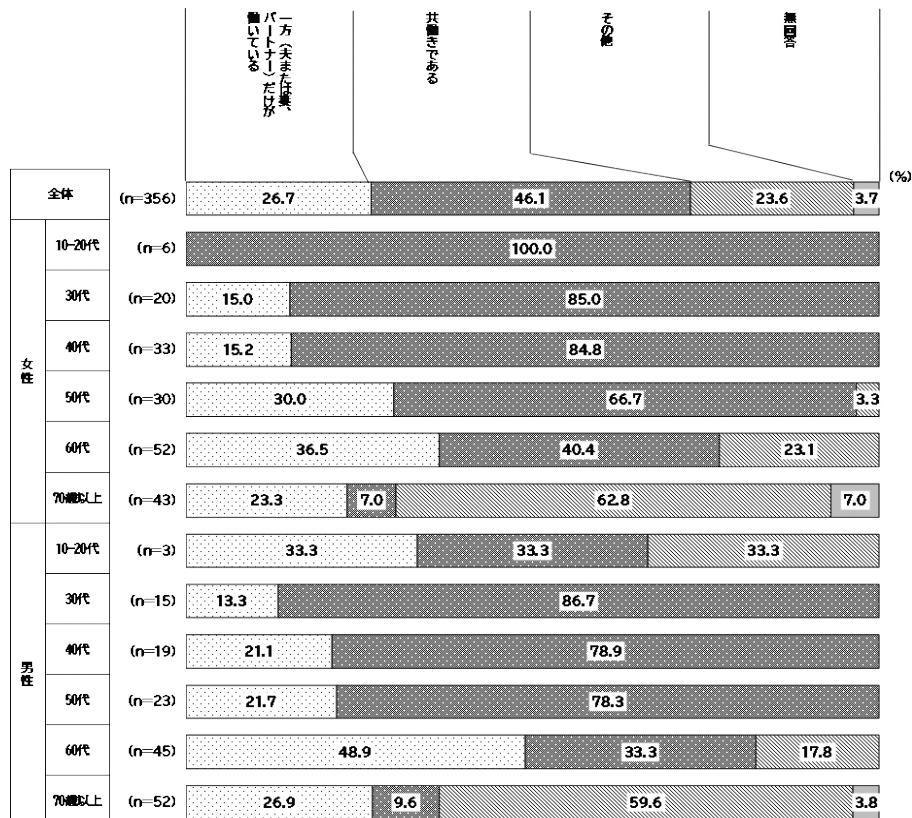


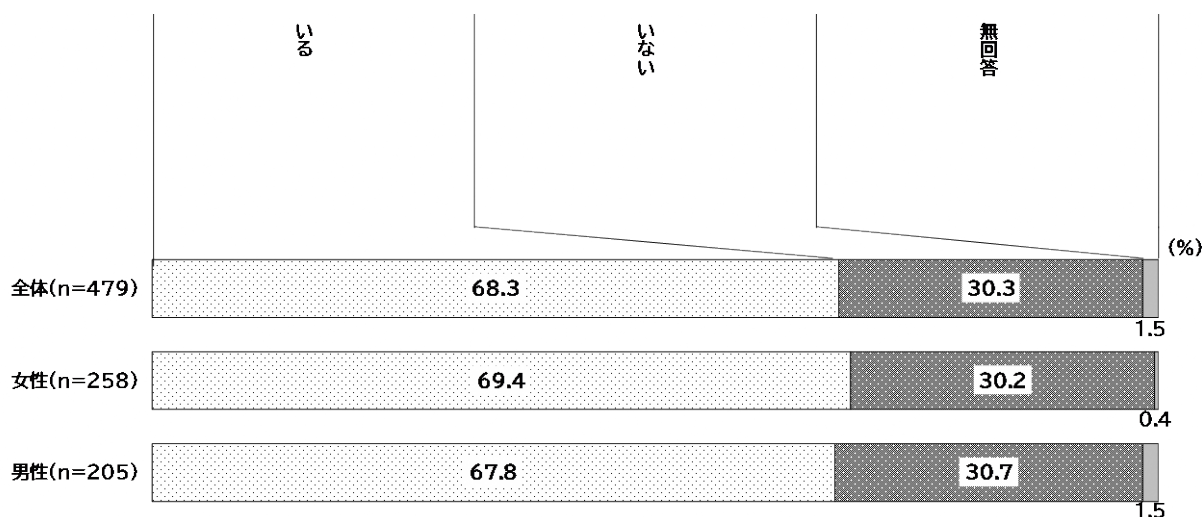
図 1-5-2 夫婦の働き方【全体・性・年代別】



(6) 子どもの有無

「いる」が7割近く（68.3%）となっている。
性別にみると、女性、男性とも同様の傾向となっている。

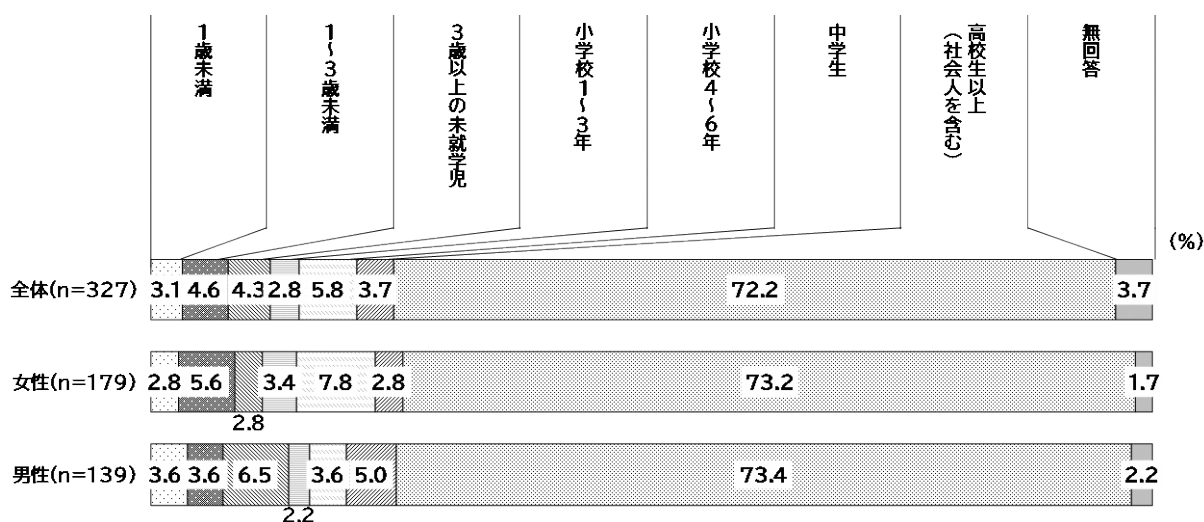
図 1-6 子どもの有無【全体・性別】



(7) 末子の成長段階

「高校生以上（社会人を含む）」が最も多く、7割強（72.2%）となっている。
性別にみると、女性、男性ともに同様の傾向となっている。

図 1-7 末子の成長段階【全体・性別】



2. 男女平等・男女共同参画について

(1) 分野別の男女の地位の平等感

問1

あなたは現在、つぎのような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれについて〇は1つ)

「平等になっている」が最も多い分野は、「学校教育の場」で4割台半ば近く(43.8%)である。その他の分野はいずれも、『男性の方が優遇されている』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)の回答が多く、女性、男性とも同様の傾向である。

性別にみると、『男性の方が優遇されている』について、女性と男性の認識の違いが大きいものとして「家庭生活」で女性が6割台半ば近く(63.6%)に対して、男性は3割台半ば(35.2%)、「法律や制度の上」で女性が6割台半ば近く(63.2%)に対して、男性は約4割(40.5%)となっている。また、「政治の場」でも「男性の方が非常に優遇されている」について、女性と男性の認識の違いが大きく、女性が5割強(51.9%)に対して、男性は3割弱(29.8%)である。

また、「社会全体」における「平等になっている」は、女性、男性とも前回調査(令和元年度)から回答率に大きな変化がみられない。

図 2-1-1 分野別の男女の地位の平等感【全体】

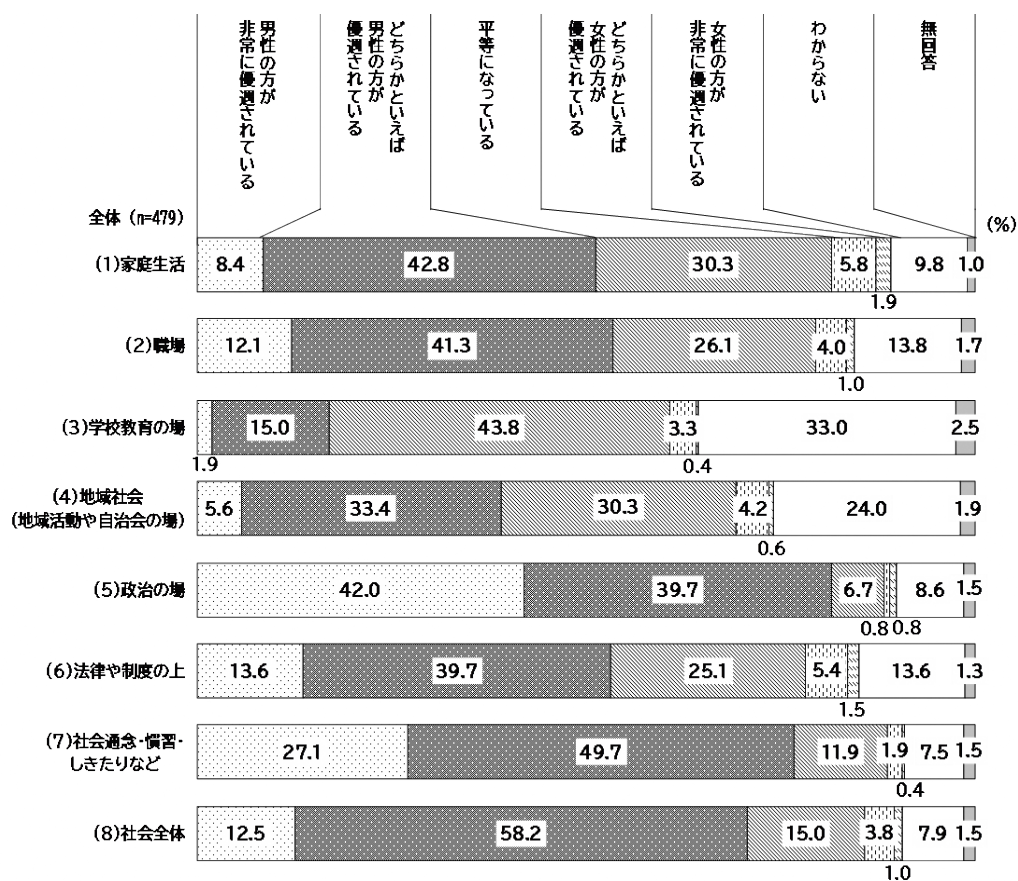
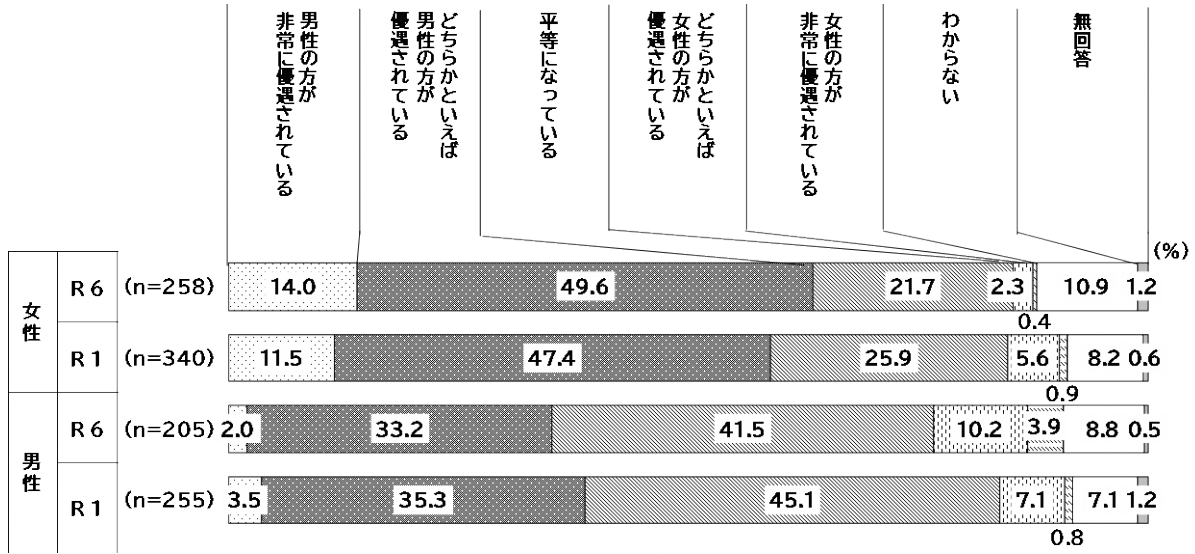
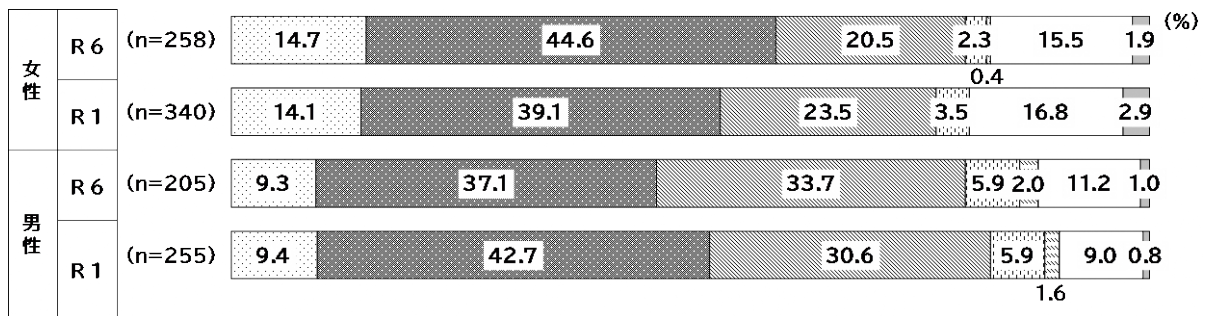


図 2-1-2 分野別の男女の地位の平等感【性別・経年比較】

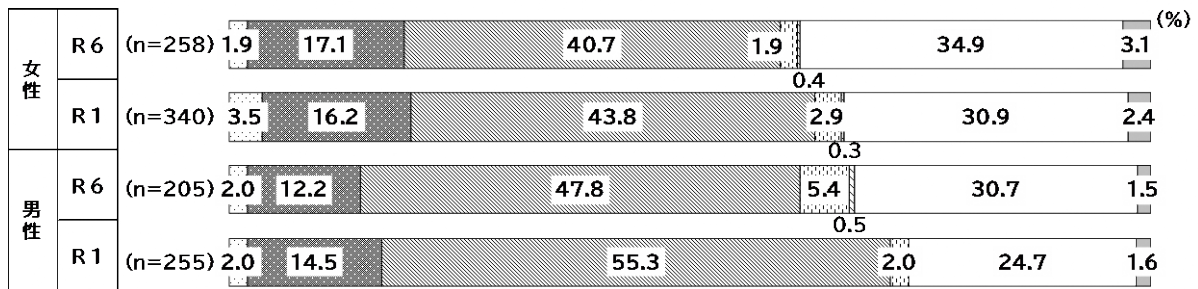
(1) 家庭生活



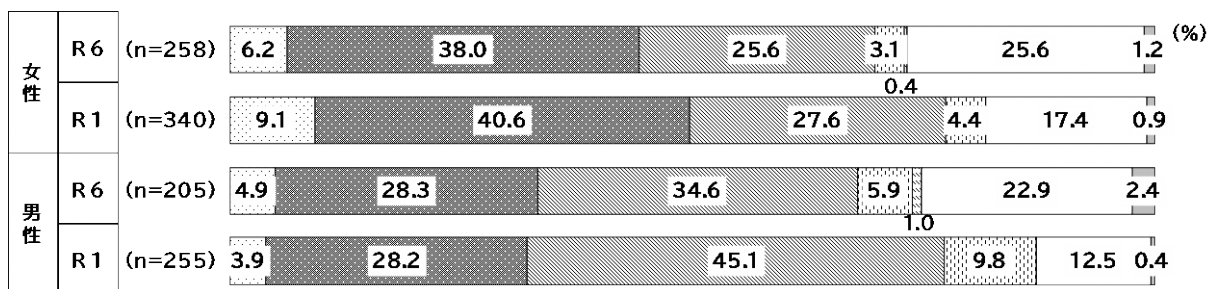
(2) 職場



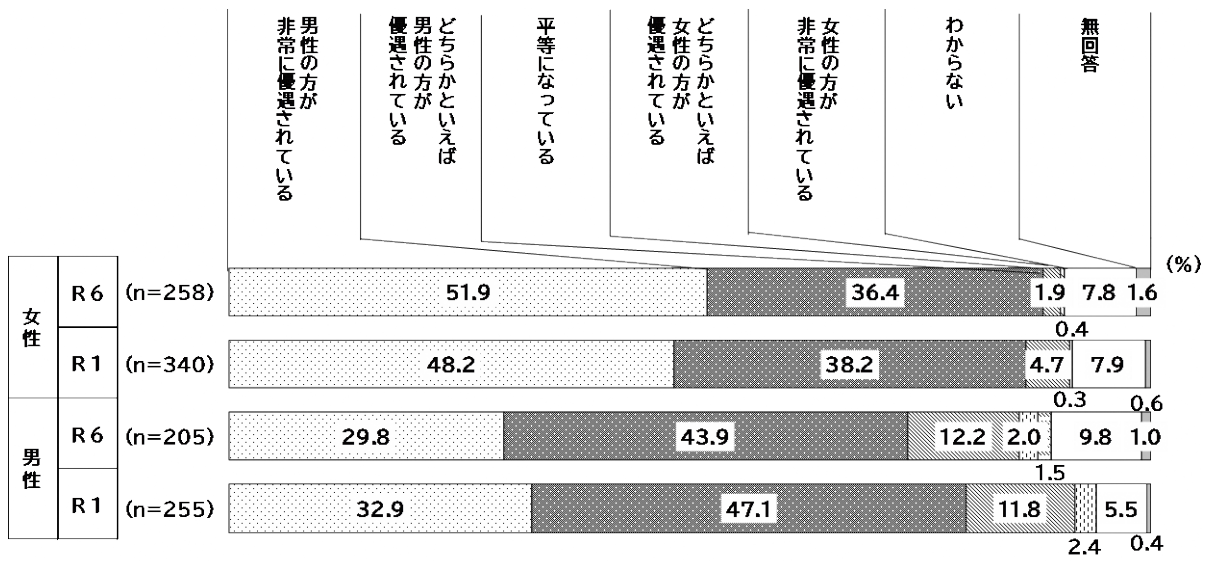
(3) 学校教育の場



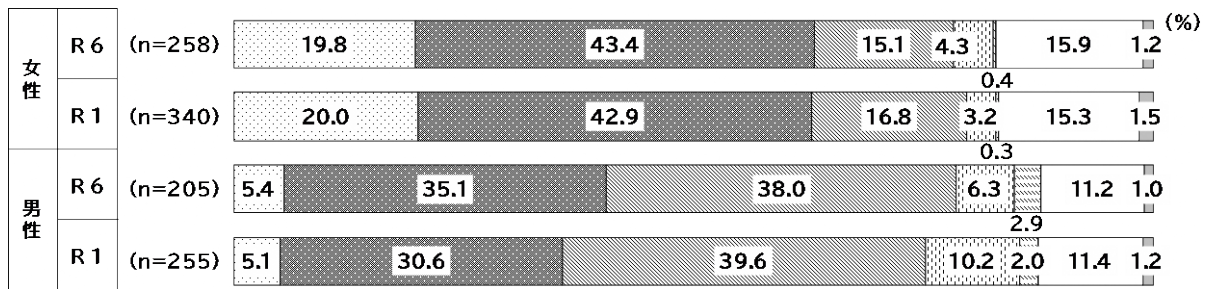
(4) 地域社会（地域活動や自治会の場）



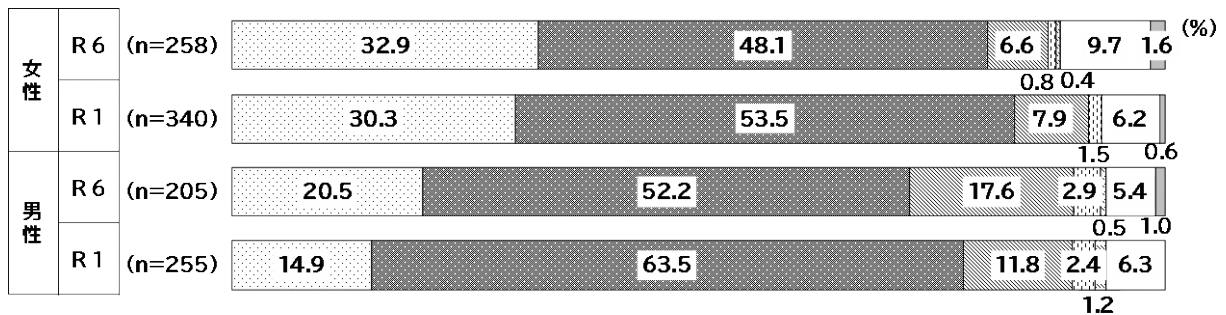
(5) 政治の場



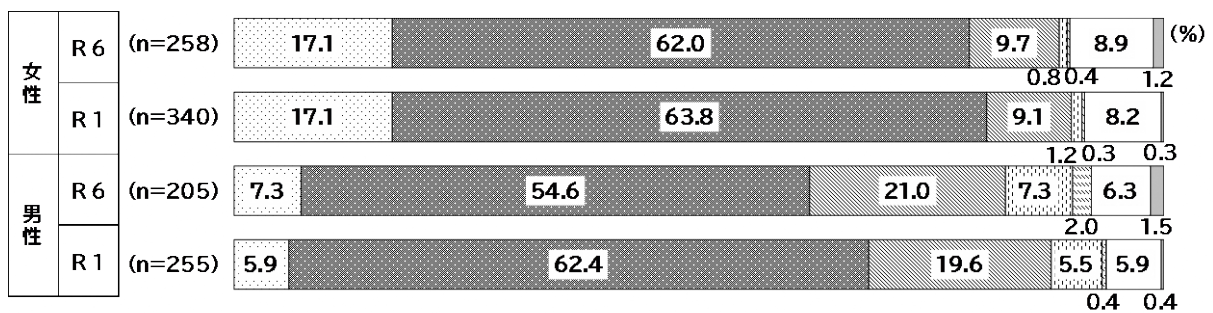
(6) 法律や制度の上



(7) 社会通念・慣習・しきたりなど



(8) 社会全体



(2) 性別役割分担意識

問2

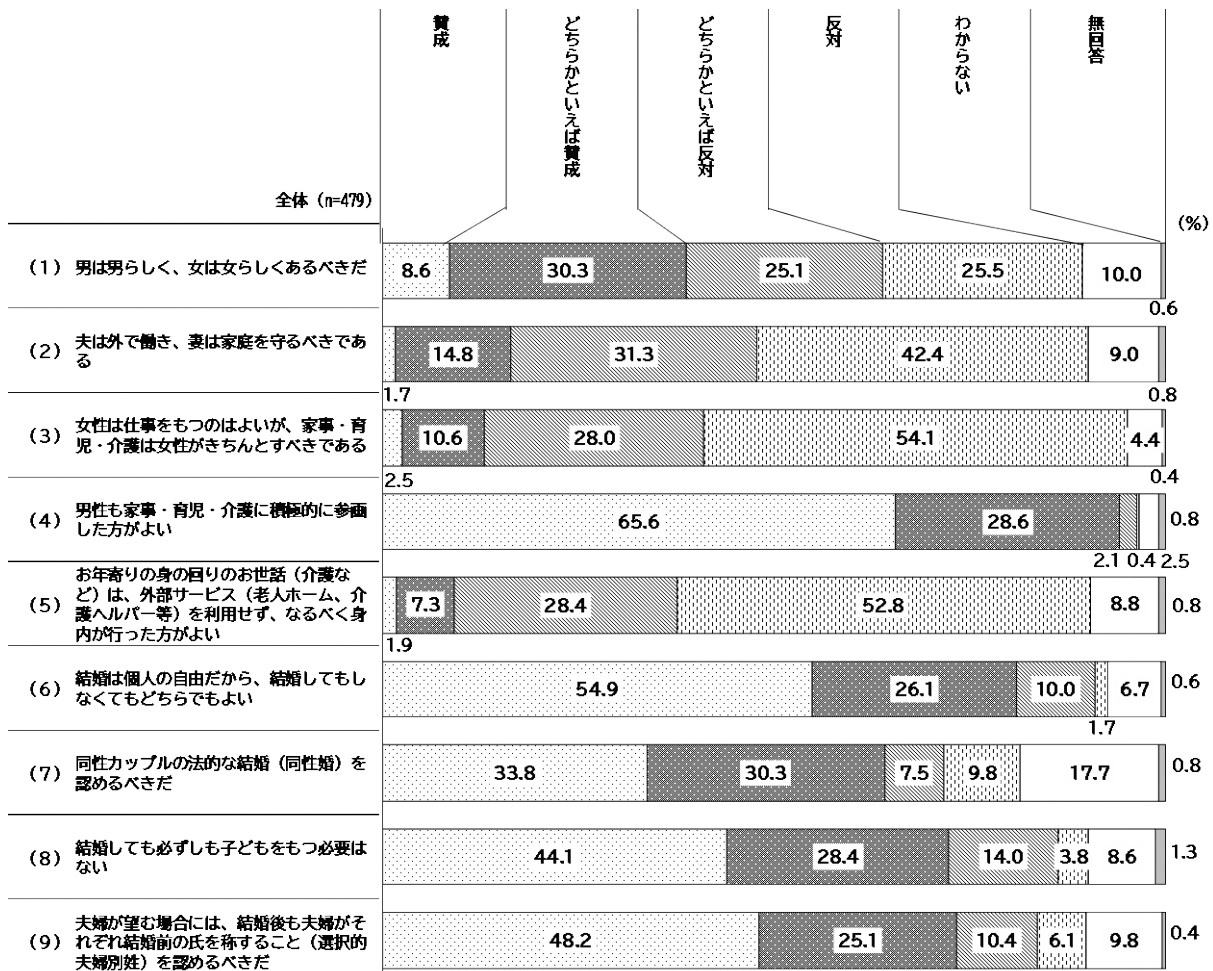
つぎのような考え方について、あなたの現在のご意見に最も近いものはどれですか。
(それぞれについて○は1つ)

固定的性別役割分担の考え方である、「男は男らしく、女は女らしくあるべきだ」は、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が約5割(50.6%)、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は、『反対』が7割台半ば近く(73.7%)、「女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである」は、『反対』が8割強(82.1%)となっている。

また「男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい」は、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が9割台半ば近く(94.2%)である。「お年寄りの身の回りのお世話(介護など)は、外部サービス(老人ホーム、介護ヘルパー等)を利用せず、なるべく身内が行った方がよい」は、8割強(81.2%)が『反対』となっている。

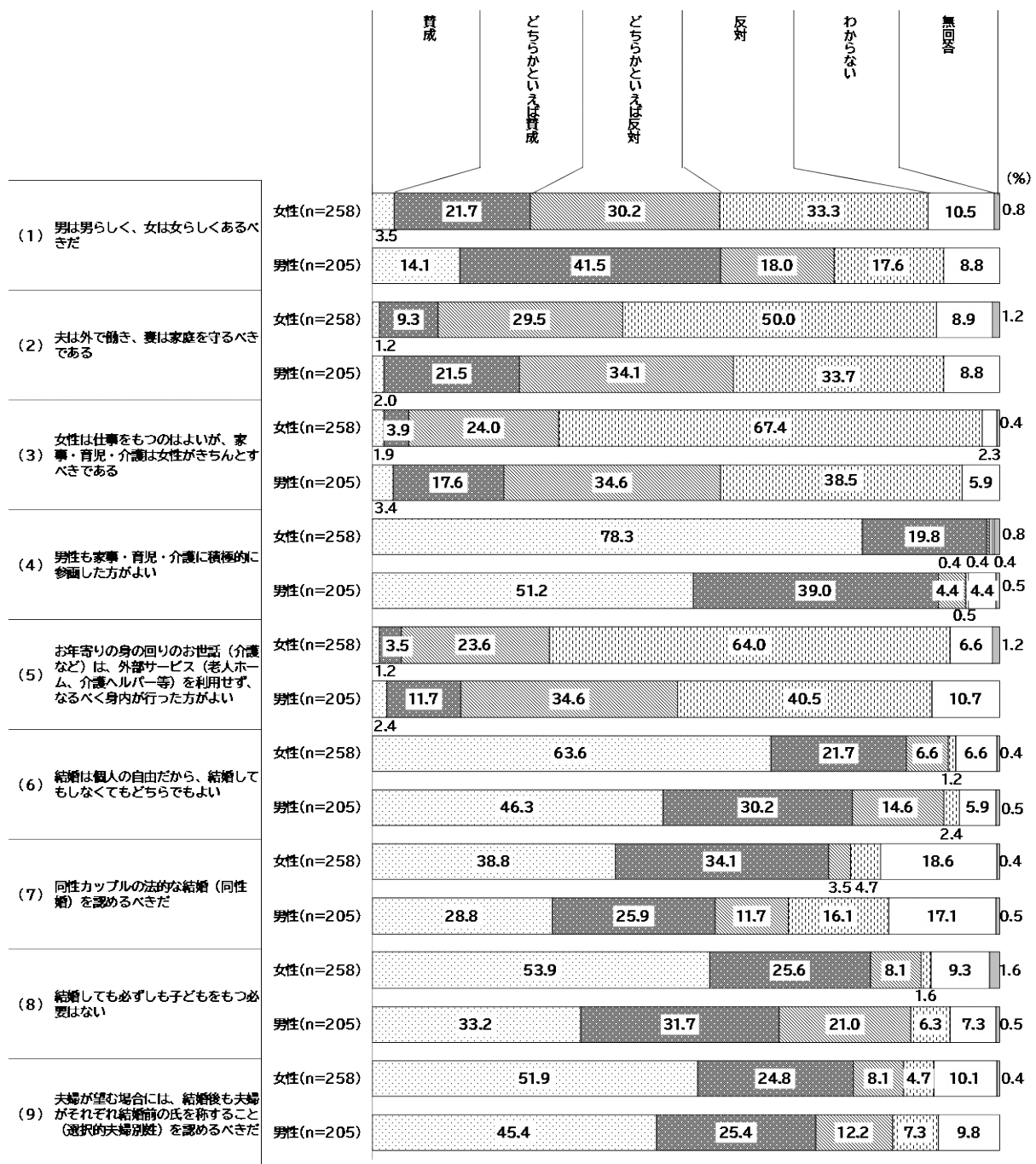
結婚に関する考えについて、「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、『賛成』が8割強(81.0%)、「同性カップルの法的な結婚(同性婚)を認めるべきだ」は、『賛成』が6割台半ば近く(64.1%)、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は、『賛成』が7割強(72.5%)、「夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の氏を称すること(選択的夫婦別姓)を認めるべきだ」は、『賛成』が7割台半ば近く(73.3%)となっている。

図 2-2-1 性別役割分担意識【全体】



性別にみると、「男は男らしく、女は女らしくあるべきだ」について、女性は『反対』が6割台半ば近く（63.5%）であるのに対し、男性は『賛成』が5割台半ば（55.6%）となっている。また、「男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい」は、『賛成』が男女ともに9割以上（女性98.1%、男性90.2%）であるが、女性の方が男性より固定的性別役割分担への反対の回答が多い。加えて、結婚や出産の自由、同性婚、選択的夫婦別姓制度に対する考え方については、いずれも女性の『賛成』の回答が多くなっている。

図 2-2-2 性別役割分担意識【性別】



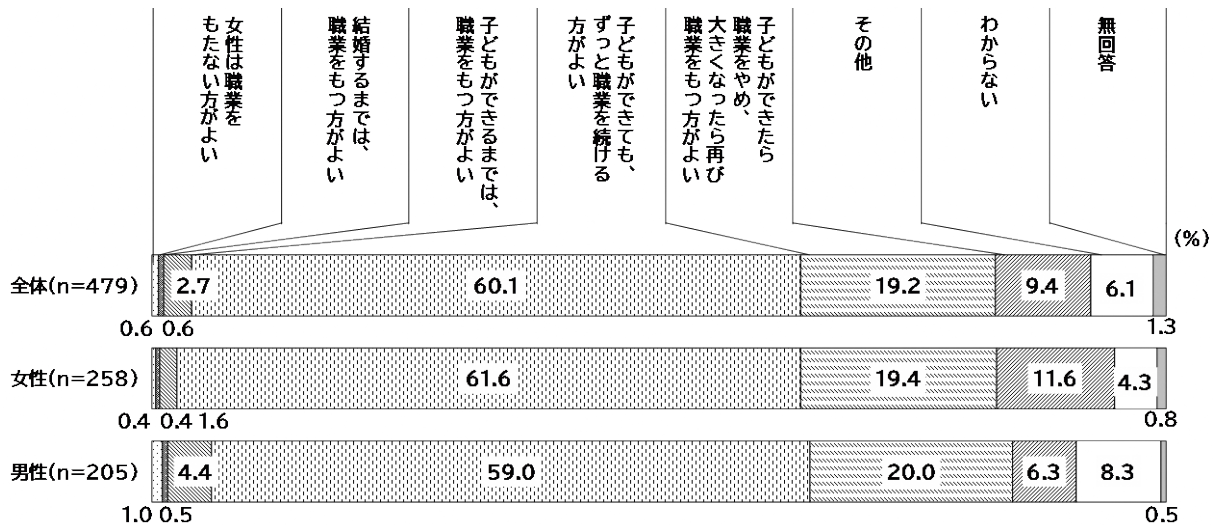
(3) 女性が職業をもつことについて

問3

一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(就業継続型)が約6割(60.1%)と最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(出産退職・再就職型)が2割弱(19.2%)となっており、女性、男性ともに同様の傾向がみられる。

図 2-3-1 女性が職業をもつことについて【全体・性別】



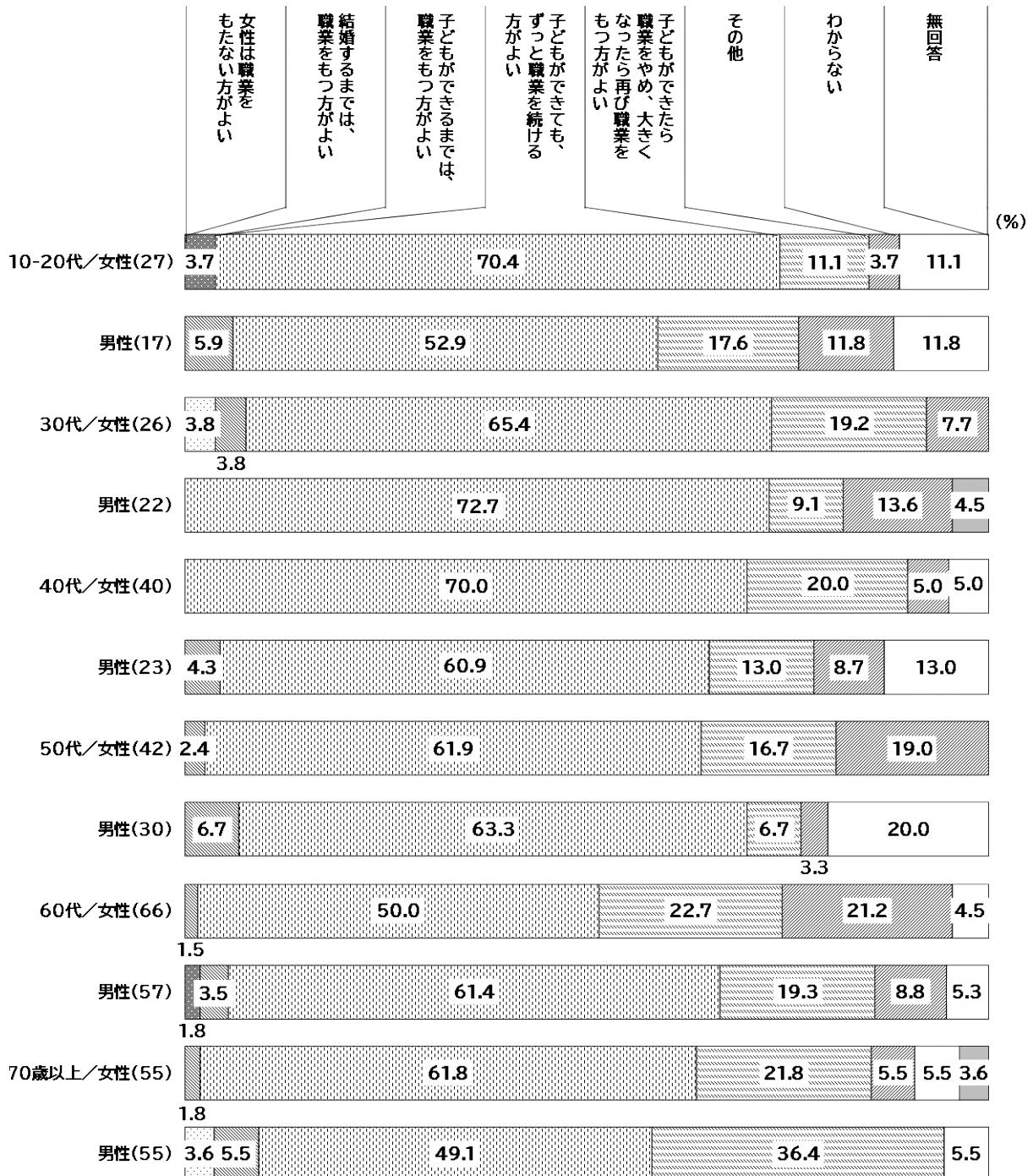
◆その他の意見

- ・個人の自由 (25)
- ・家庭環境や状況による (10)
- ・職業をもつことはよい、続けた方がよい (3)
- ・子どもを優先に考えた方がよい (3)

型	問3 選択肢
非就労型	女性に職業をもたない方がよい
結婚退職型	結婚するまでは、職業をもつ方がよい
出産退職型	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
就業継続型	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
出産退職・再就職型	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい

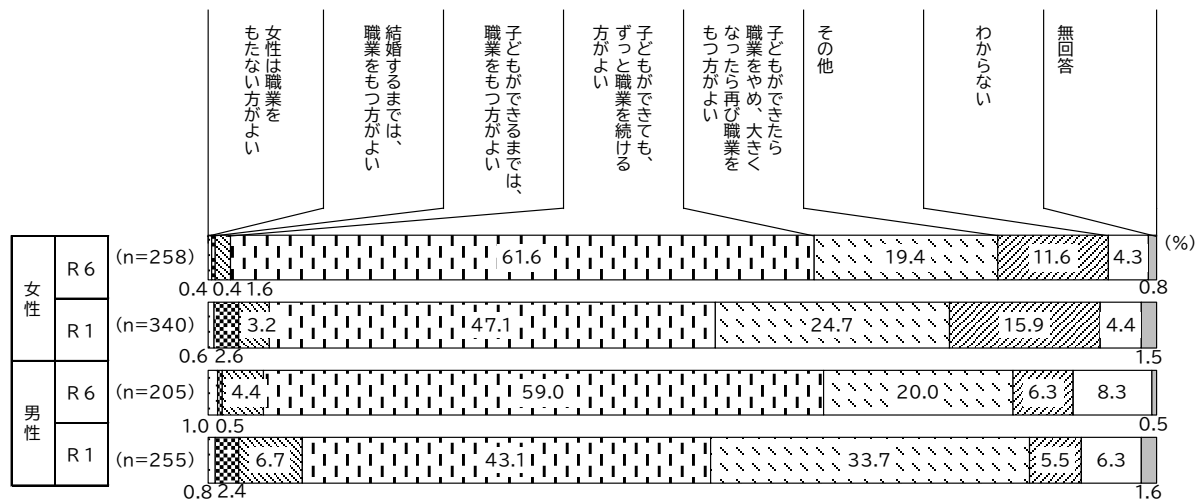
年代・性別ごとにみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）は、30代男性が7割強（72.7%）と最も多く、次いで、20代女性（70.4%）と40代女性（70.0%）の順となっている。

図 2-3-2 女性が職業をもつことについて【年代・性別】



前回調査（令和元年度）と比較してみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）は、女性、男性とも15ポイント前後高くなっている。一方、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（出産退職・再就職型）は、男性の回答率が前回調査より約14ポイント低くなっている。

図 2-3-3 女性が職業をもつことについて【性別・経年比較】



(4) 学校における教育について

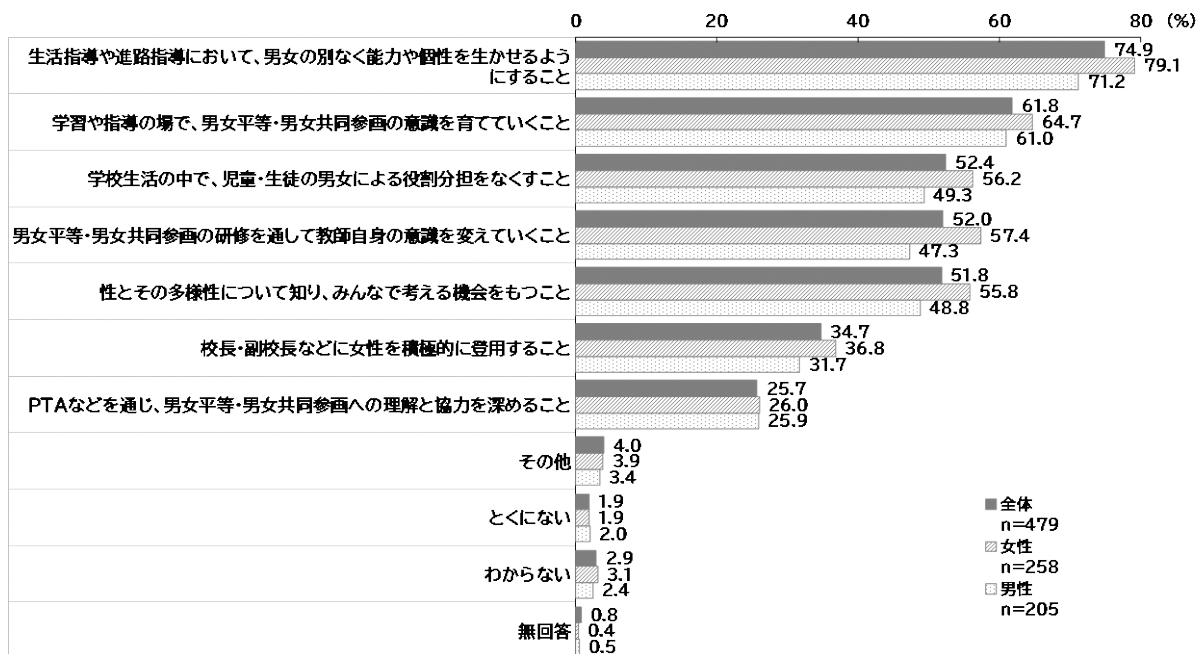
問4

男女平等・男女共同参画社会を実現するためには、学校における教育が重要であるといわれています。つぎの中から、あなたが重要だと思うものを選んでください。(〇はいくつでも)

「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が7割台半ば近く(74.9%)で最も多く、次いで「学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと」が6割強(61.8%)、「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」が5割強(52.4%)となっている。

性別でみても同様の傾向がみられるが、いずれの項目においても、女性は男性よりも回答率が高い。特に、「男女平等・男女共同参画の研修を通して教師自身の意識を変えていくこと」において、女性と男性で約10ポイントの差がみられる。

図 2-4 学校における教育について【全体・性別】



◆その他の意見

- ・男女の個性について、より積極的に教育する(5)
- ・平等について考える機会を設ける、意識する(4)
- ・他者への理解、思いやり、相手(個人)の意思や尊重などを伝えていく(3)
- ・男女を問わず、適正や能力のある人を校長や副校長として登用する(1)
- ・各々が考えてそれぞれの答え(考え)を持つことが多様な社会をつくる源である(1)
- ・男女平等よりも、経済や社会について考えていく方が良い(1)

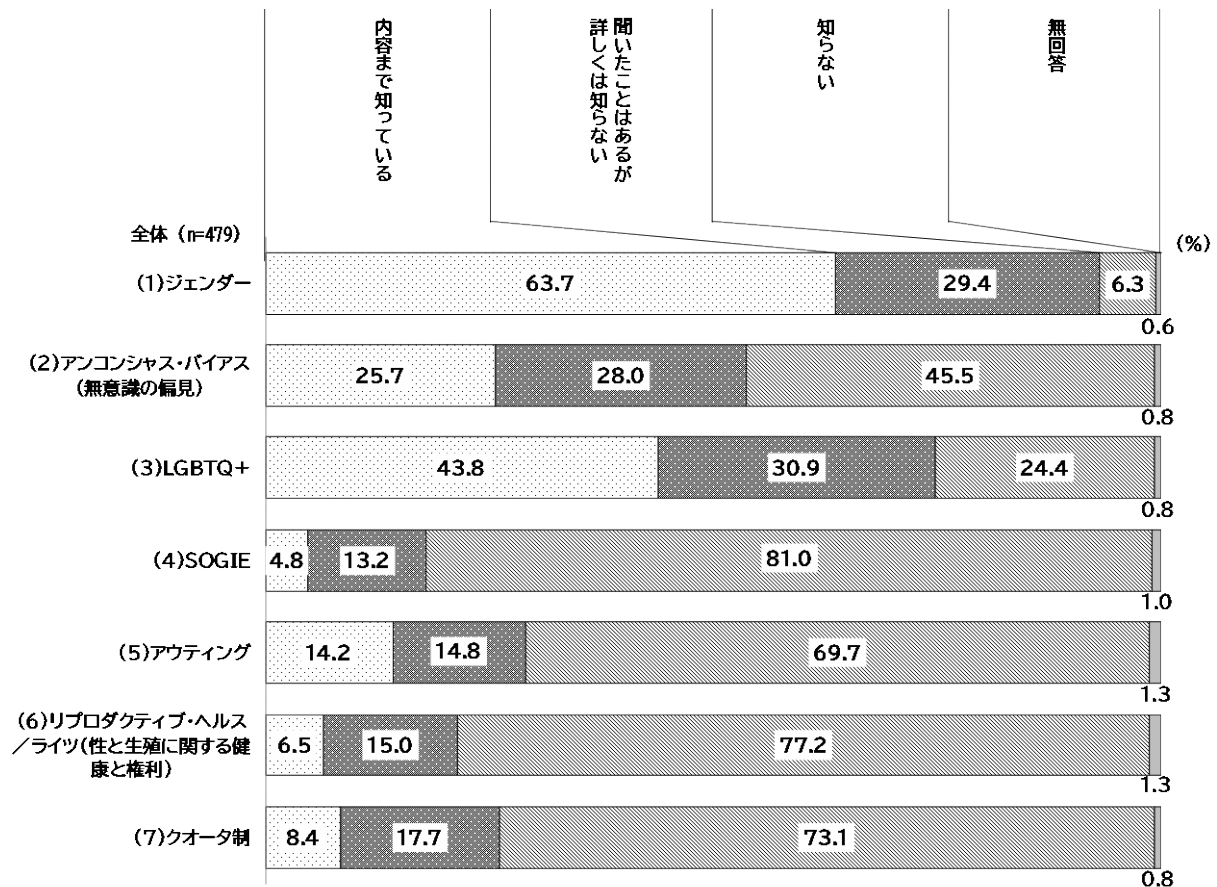
(5) 男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度

問5

あなたは、男女平等参画に関するつぎの言葉や意味を知っていますか。
(それぞれについて○は1つ)

「内容まで知っている」が最も多いのは、「ジェンダー」で6割台半ば近く(63.7%)、次いで「LGBTQ+」が4割台半ば近く(43.8%)である。それ以外の言葉は「知らない」が最も多い。特に、「SOGIE」を「知らない」は8割強(81.0%)で最も多く、次いで「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」を「知らない」が7割台半ばを超え(77.2%)、「クオータ制」を「知らない」が7割台半ば近く(73.1%)となっている。

図 2-5 男女平等、性的少数者等に関する言葉の認知度【全体】



3. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) 希望するワーク・ライフ・バランス

問6 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（〇は1つ）

『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も多く、3割強（32.8%）で、女性は約3割（30.2%）、男性は3割台半ばを超え（36.1%）となっている。また、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい』については、男女とも前回調査（令和元年度）より回答率が高く、女性は約7ポイント、男性は約4ポイント増加している。

また『仕事』を優先したい』は、女性（1.6%）より男性（4.4%）の回答率が高い。一方、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて優先したい』は女性の回答率が高く、男性の1割台半ば近く（14.1%）に対して、女性は2割台半ば（25.6%）である。

図 3-1-1 希望するワーク・ライフ・バランス【全体・性別】

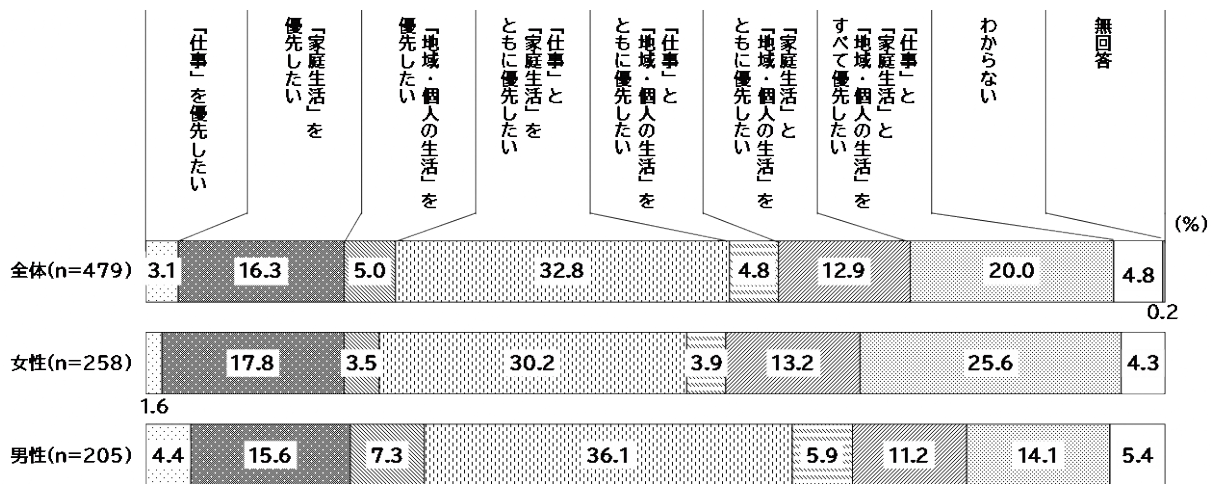
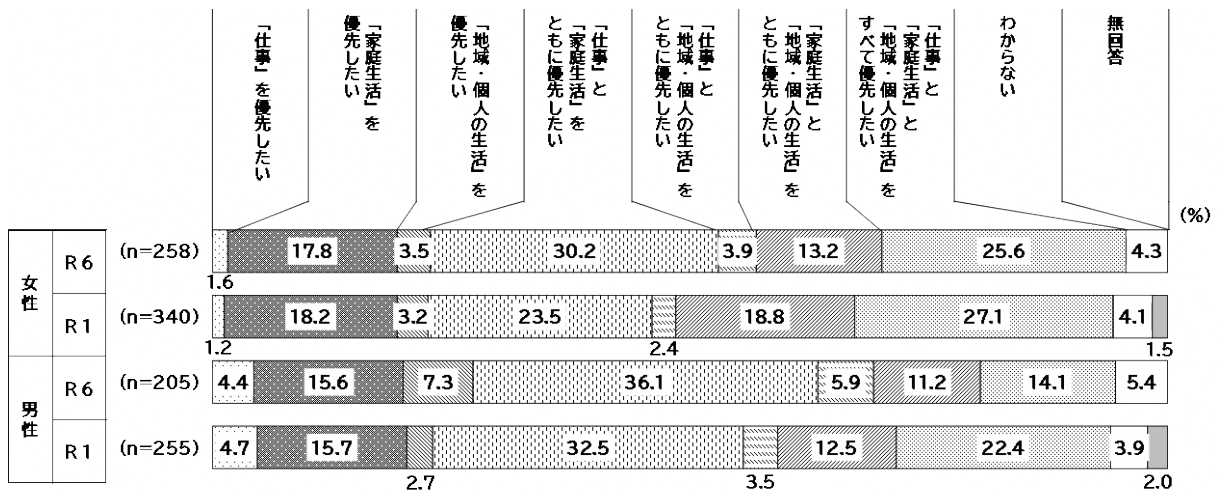


図 3-1-2 希望するワーク・ライフ・バランス【性別・経年比較】



(2) 実際のワーク・ライフ・バランス

問7

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

『家庭生活』を優先している」が2割台半ば超え（26.5%）で最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が2割台半ば近く（24.0%）、『仕事』を優先している」が2割弱（19.8%）となっている。

女性は『家庭生活』を優先している」が最も多く、3割強（32.6%）で、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が約2割（20.9%）、『仕事』を優先している」が1割台半ば（15.5%）となっている。男性は『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割弱（29.8%）で最も多く、次いで『仕事』を優先している」が2割台半ば（25.4%）、『家庭生活』を優先している」が2割弱（19.0%）となっている。

前回調査（令和元年度）と比較してみると、『仕事』を優先している」で、男性は約5ポイント低くなっているが、女性は約5ポイント高くなっている。また、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」では、女性は3ポイント、男性は約4ポイント増加している。

図3-2-1 実際のワーク・ライフ・バランス【全体・性別】

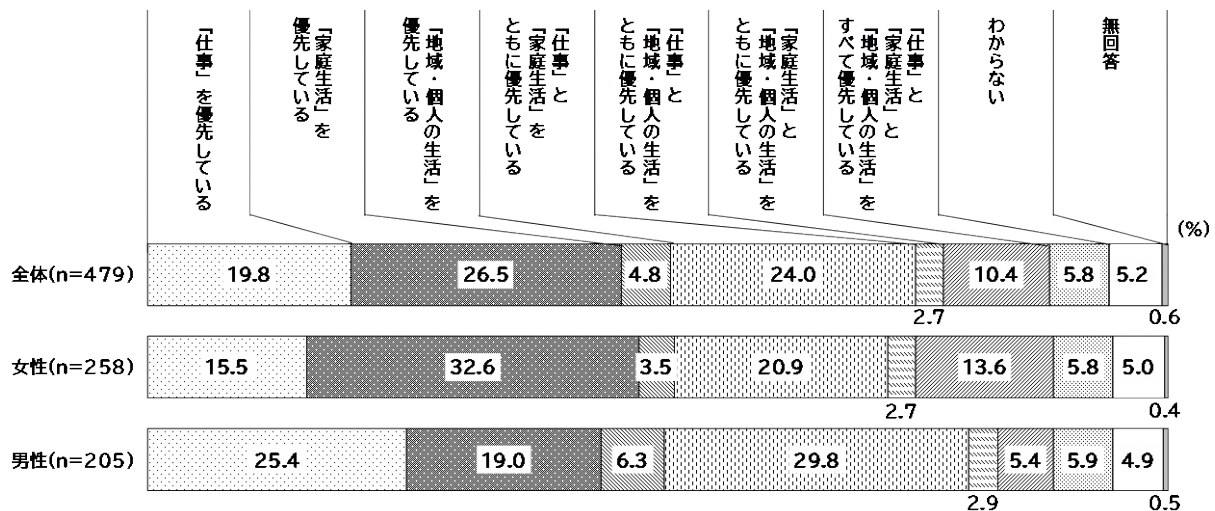
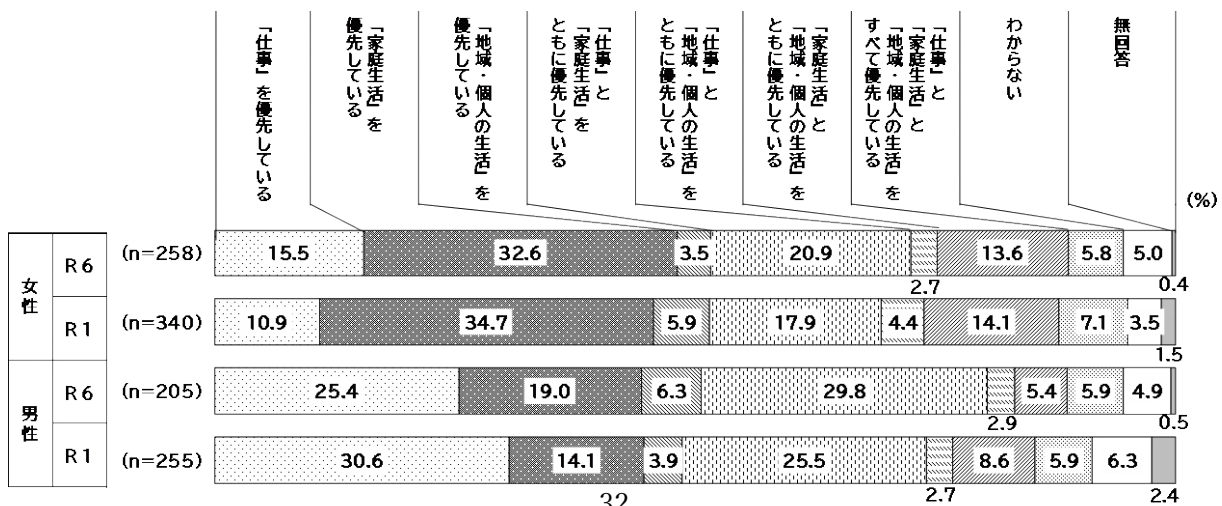


図3-2-2 実際のワーク・ライフ・バランス【性別・経年比較】



(3) 男性の家事への参加について

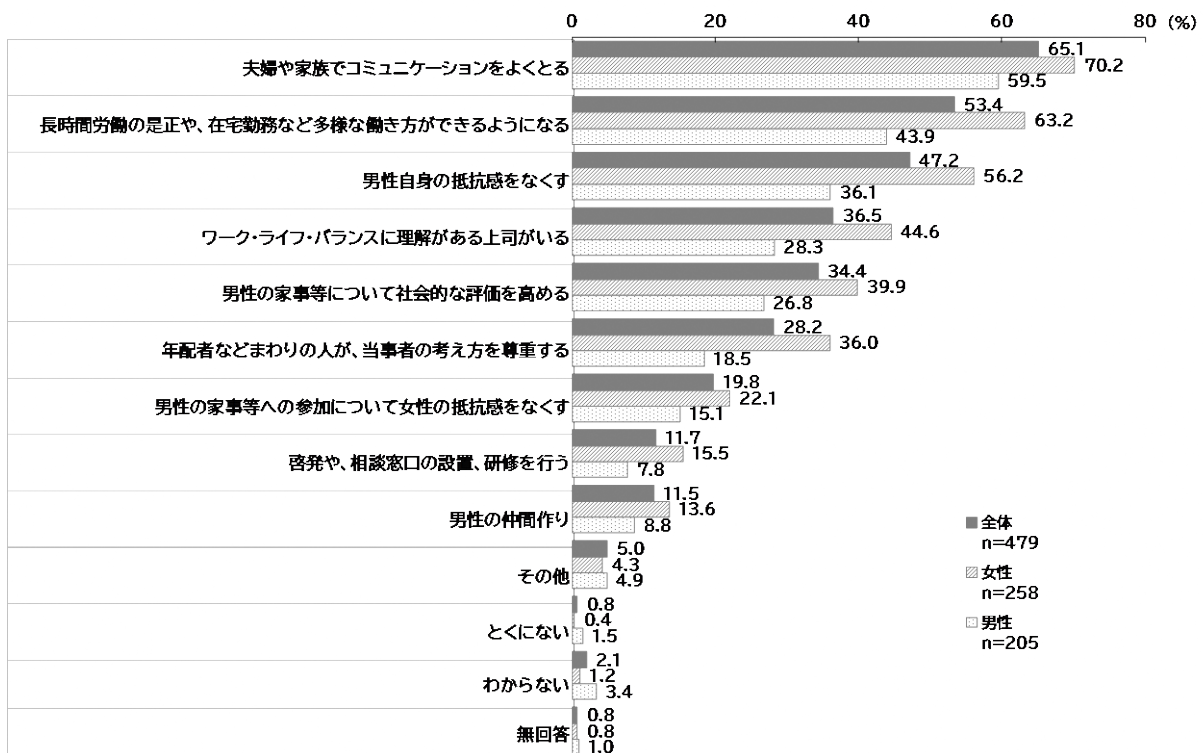
問8

あなたは、男性が家事等（家事・育児・介護・地域活動）に参加していくためには、とくにどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」が6割台半ば（65.1%）で最も多く、次いで「長時間労働の是正や、在宅勤務など多様な働き方ができるようになる」が5割台半ば近く（53.4%）、「男性自身の抵抗感をなくす」が4割台半ばを超え（47.2%）となっている。

また、いずれの項目も、男性より女性の回答率が高い。特に、「男性自身の抵抗感をなくす」では、女性と男性の回答率に約20ポイントの差が、続いて「長時間労働の是正や、在宅勤務など多様な働き方が出来るようになる」では約19ポイントの差がみられ、他の項目よりも認識の違いが大きくなっている。

図3-3 男性の家事への参加について【全体・性別】



◆その他の意見

- ・お互いが尊敬や思いやりをもって協力しあう(4)
- ・社会・国のサポート（法律制定、経済的支援、預かり保育の拡充など）(3)
- ・男性の自己意識の改善、自己改革(3) ・会社の理解、サポート(3) ・幼いころから家事の手伝いをさせる(3)
- ・女性管理職を増やすことで、男性（夫）が家事をしなくてはならない環境にする(1)
- ・一人になった時に困らないように家事等を覚える(1)
- ・男女を問わず、子育てや介護に向き不向きがあると思う(1)

(4) 女性リーダーの進出について

問9

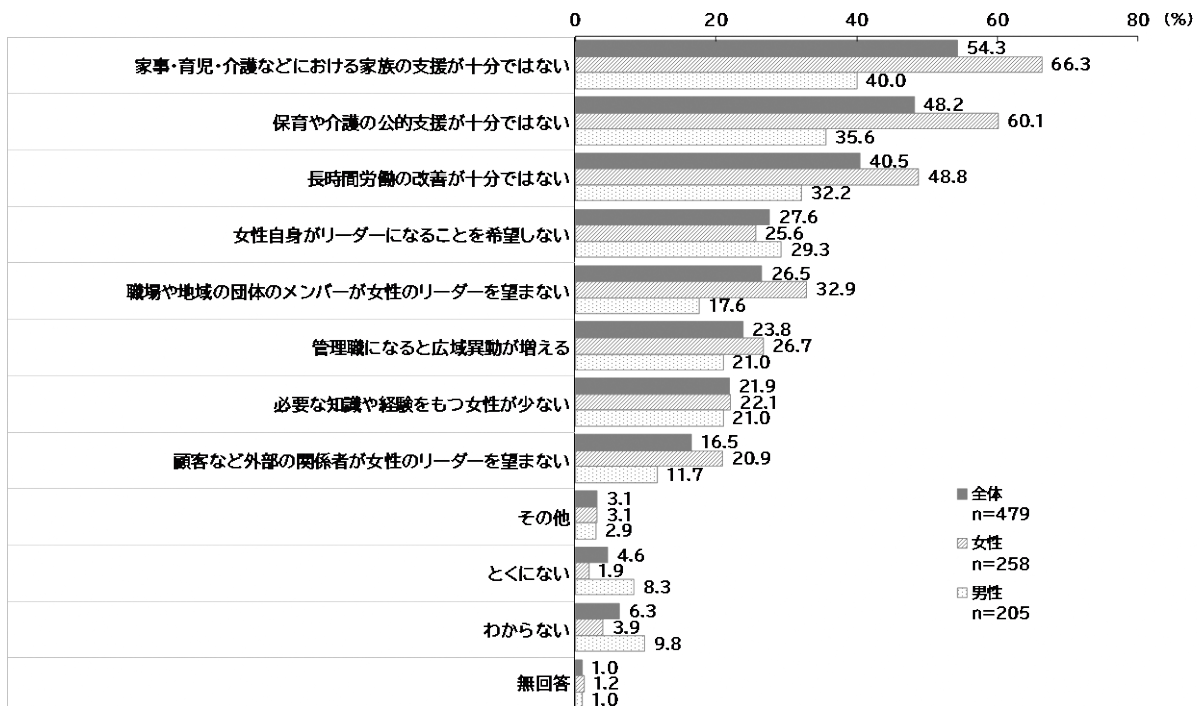
あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダー（組織における管理職や、地域活動等におけるリーダー的な役割等）を増やすときに妨げとなるものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」が5割台半ば近く（54.3%）で最も多く、次いで「保育や介護の公的支援が十分ではない」が5割近く（48.2%）、「長時間労働の改善が十分ではない」が約4割（40.5%）となっている。

性別にみると、女性は、「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」が66.3%と6割台半ばを超えており、男性の回答率（40.0%）との差が約26ポイントとなっている。「保育や介護の公的支援が十分ではない」も女性が60.1%と6割台を越え、男性の回答率（35.6%）との差も約25ポイントあり、その他の項目における男女差よりも大きくなっている。また、「長時間労働の改善が十分ではない」についても、女性の回答率が5割近く（48.8%）と男性（32.2%）より高くなっている。

一方、「女性自身がリーダーになることを希望しない」では、男性の回答率が3割弱（29.3%）であり、女性の回答率2割台半ば（25.6%）よりも高くなっている。

図3-4 女性リーダーの進出について【全体・性別】



◆その他の意見

- ・古い考え、慣習、先例主義(3) ・男性の偏見・理解不足(2) ・出産、育児(2)
- ・そもそもリーダーになろうという意思を持った女性が少ない(1) ・男女を差別する意識が問題である(1)
- ・女性は管理職に向いていない傾向にあると思う(1) ・男性の意識改革(1) ・女性の理想像がない(1)

(5) 実現のための重要施策

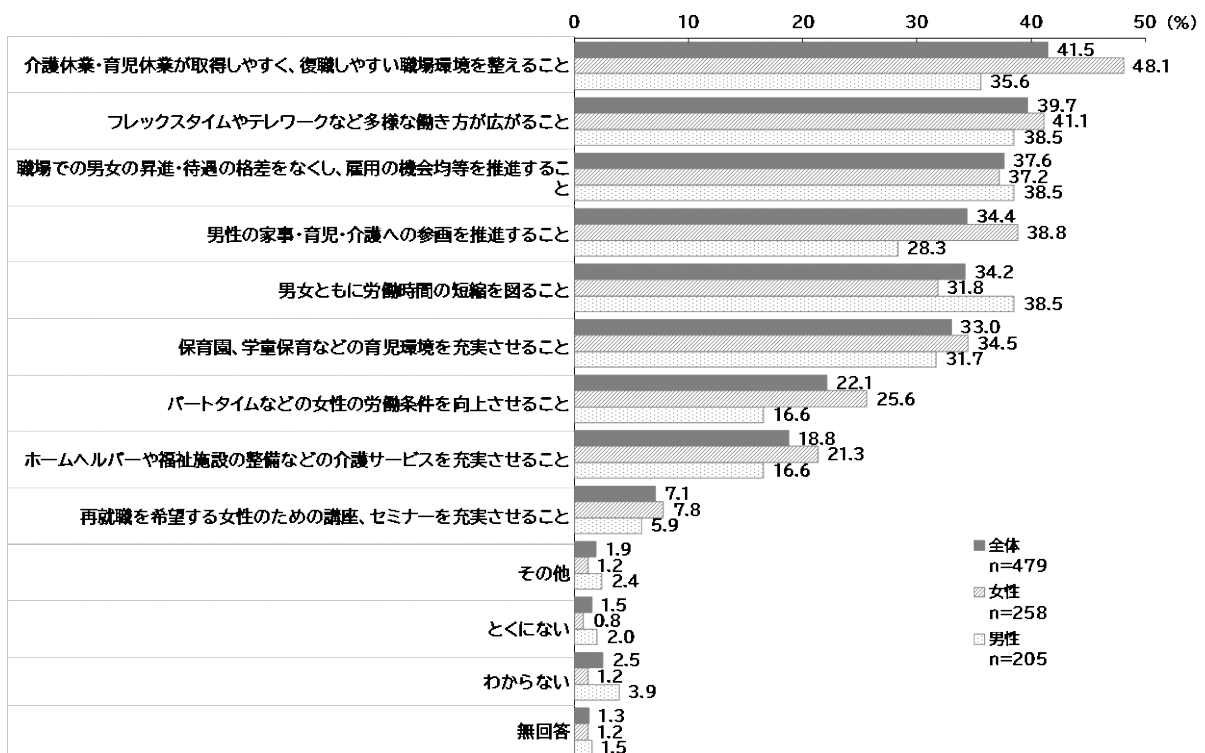
問10

これから男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・育児休業が取得しやすく、復職しやすい職場環境を整えること」が4割強(41.5%)と最も多く、次いで「フレックスタイムやテレワークなど多様な働き方が広がること」が4割弱(39.7%)、「職場での男女の昇進・待遇の格差をなくし、雇用の機会均等を推進すること」が3割台半ば超え(37.6%)となっている。

性別にみると、「介護休業・育児休業が取得しやすく、復職しやすい職場環境を整えること」と「男性の家事・育児・介護への参画を推進すること」については、女性の回答率が男性よりも10ポイント以上高い。一方、男性では、「男女ともに労働時間の短縮を図ること」が、女性よりも回答率が約7ポイント高くなっている。

図3-5 実現のための重要施策【全体・性別】



◆その他の意見

- ・休みを取りやすい仕組み、暮らしやすい環境作り(3)
- ・賃金の上昇(3)
- ・子育てしている夫婦ばかり優遇しない(1)
- ・男性の意識改革(1)

4. あなたの日頃の生活について

(1) 夫婦の役割分担

問11

結婚している方（事実婚*の方もお答えください）におたずねします。家庭生活での、夫婦の役割分担はどのようになさっていますか。（それぞれ○は1つ）

*本調査では、婚姻届は出していないが、パートナー（異性・同性問わず）と共同生活をしていることを「事実婚」と呼びます。

「家庭の重大事項の決定」における「夫と妻と同程度」が5割台半ば超え（56.2%）で最も多く、次いで「買い物」における「夫と妻と同程度」が4割強（41.9%）、「子どもの教育」における「夫と妻と同程度」が3割台半ば超え（37.4%）となっている。

性別にみると、「家庭の重大事項の決定」は、女性、男性ともに「夫と妻と同程度」が最も多く、女性5割台半ば近く（54.3%）、男性6割弱（59.5%）となっている。一方で、「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」「掃除」「買い物」「子どもの教育」においては、女性と男性で役割の認識に違いがみられ、女性の方が上記の役割について「妻の役割」、「どちらかといえば妻の役割」と認識していて、男性は「夫と妻と同程度」、「どちらかといえば妻の役割」と認識している割合が高い。他方、「家庭の重大事項の決定」「家計の管理（やりくり）」「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」「洗濯」「掃除」「買い物」「老親の介護・看護」は、男女とも前回調査（令和元年度）より「夫と妻と同程度」の回答率が高くなっている。

図 4-1-1 夫婦の役割分担【全体】

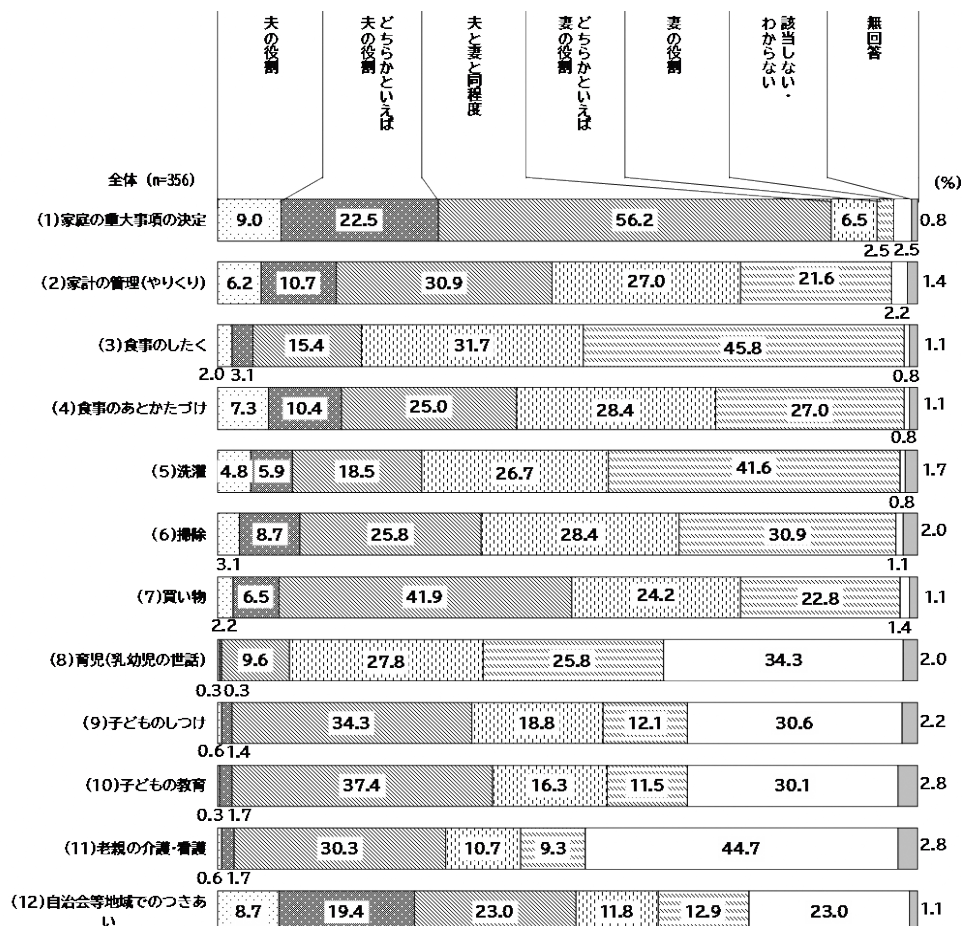
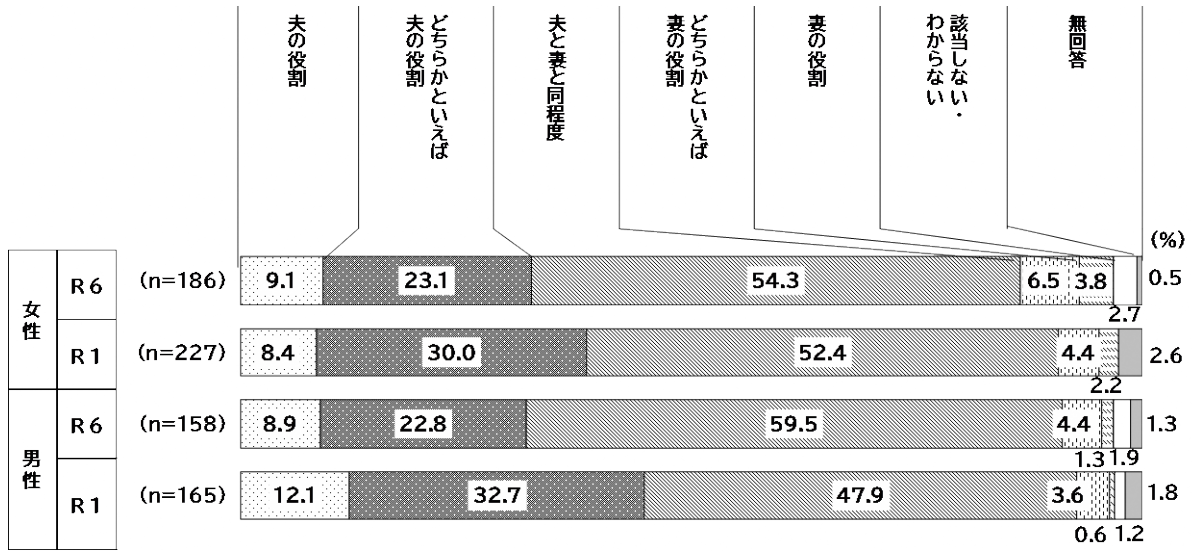
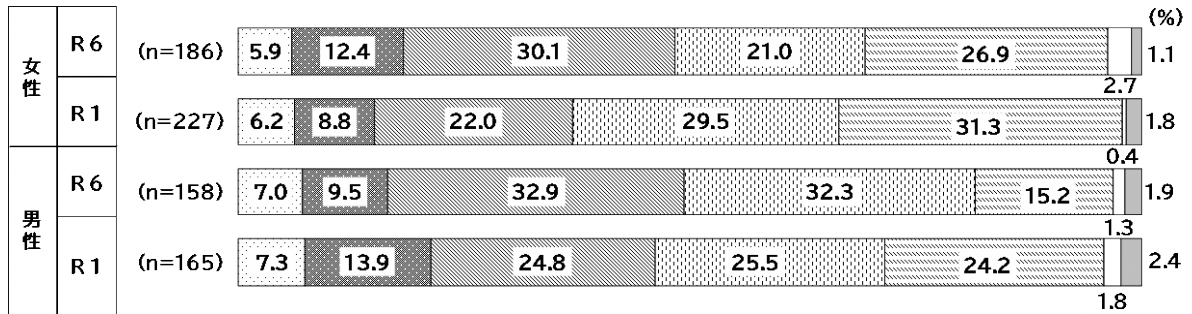


図 4-1-2 夫婦の役割分担【性別・経年比較】

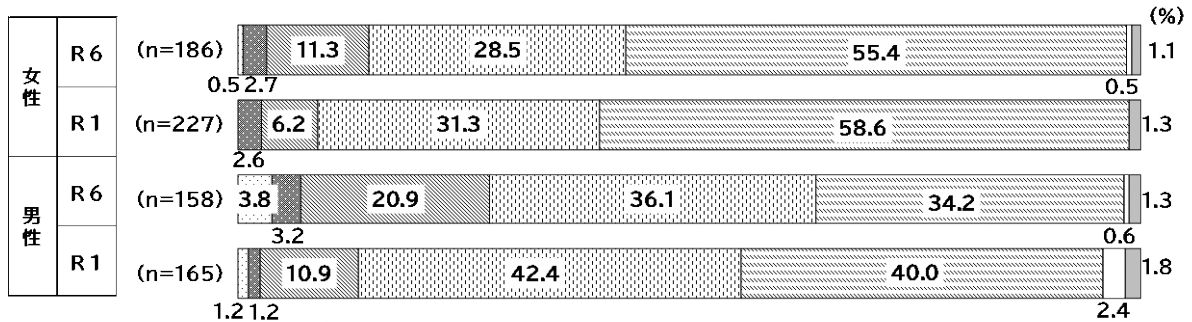
(1) 家庭の重大事項の決定



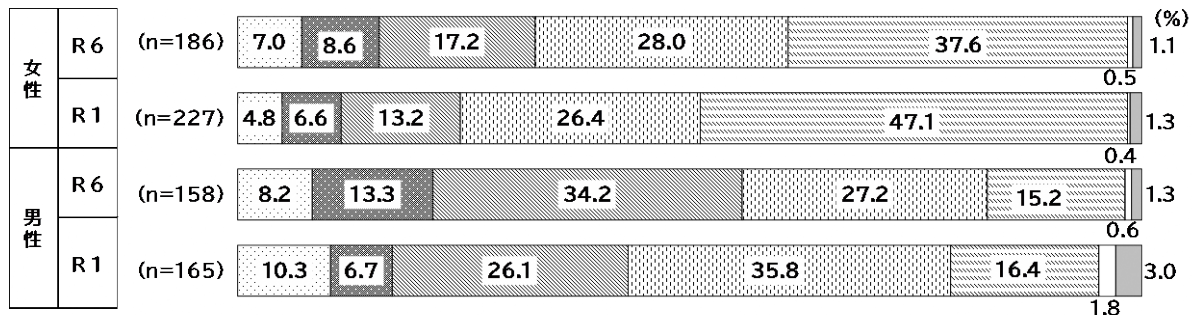
(2) 家計の管理 (やりくり)



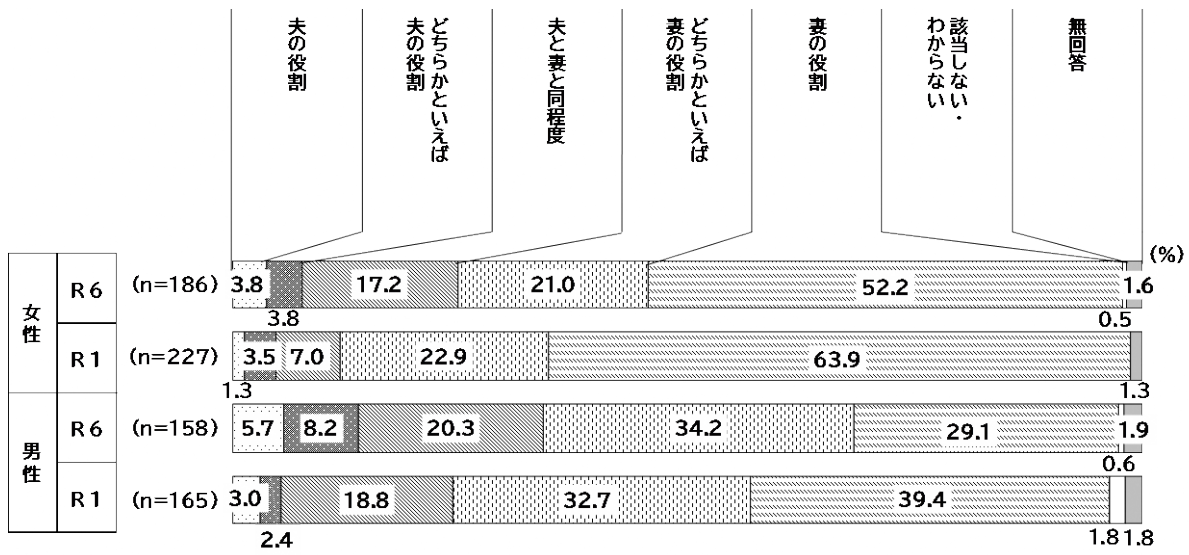
(3) 食事のしたく



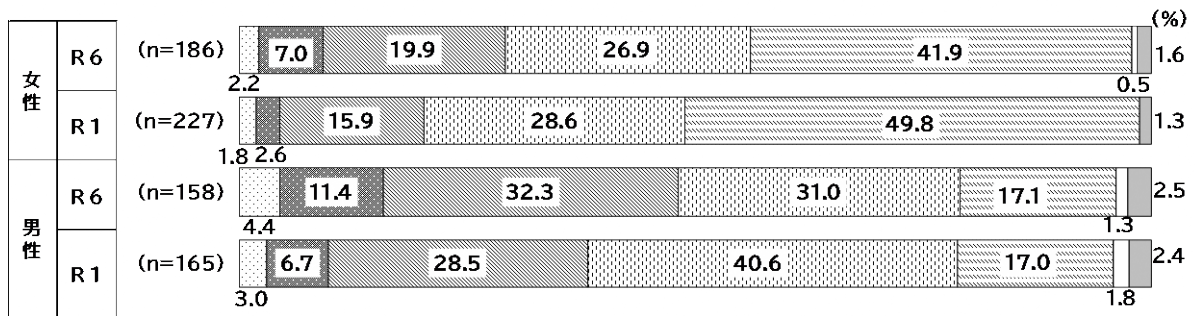
(4) 食事のあとかたづけ



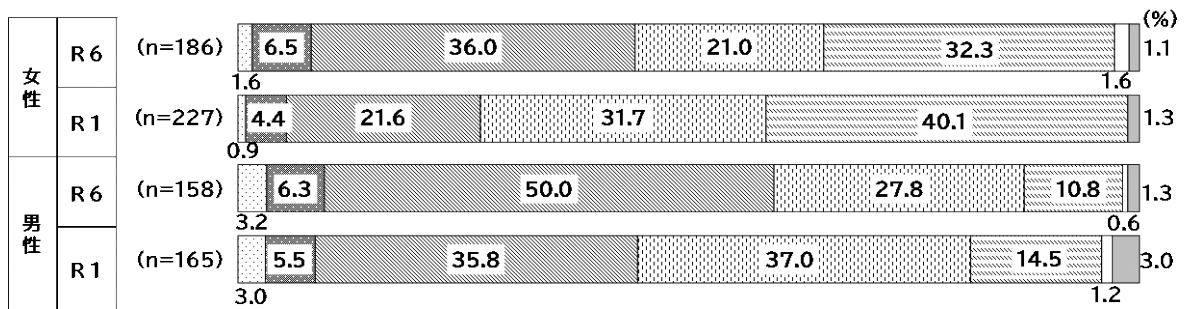
(5) 洗濯



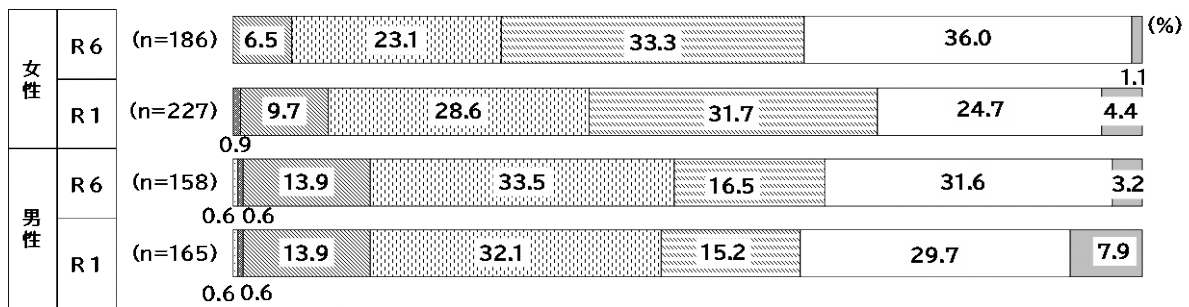
(6) 掃除



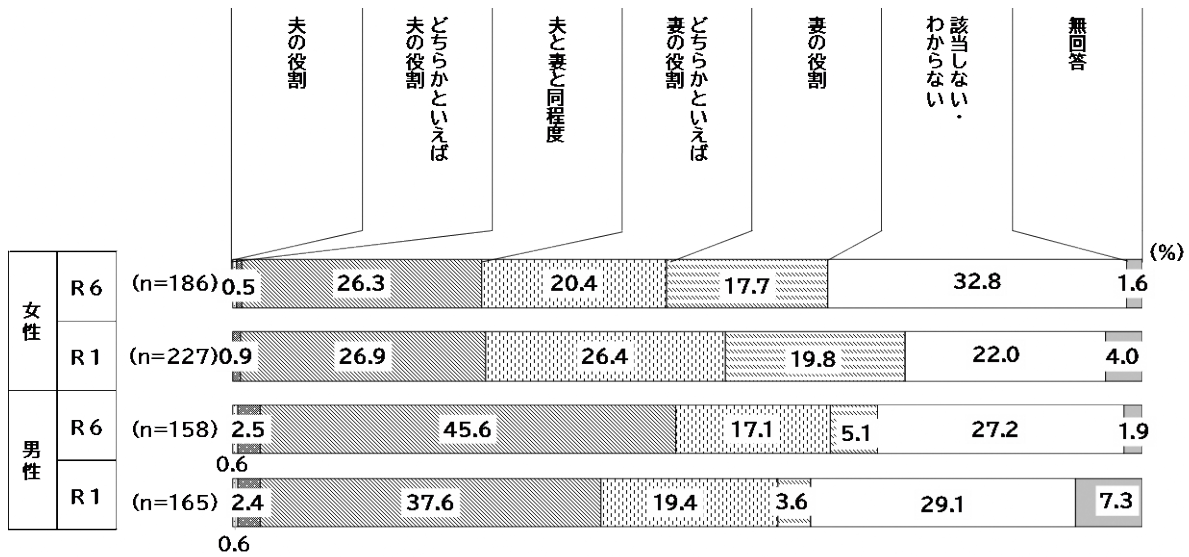
(7) 買い物



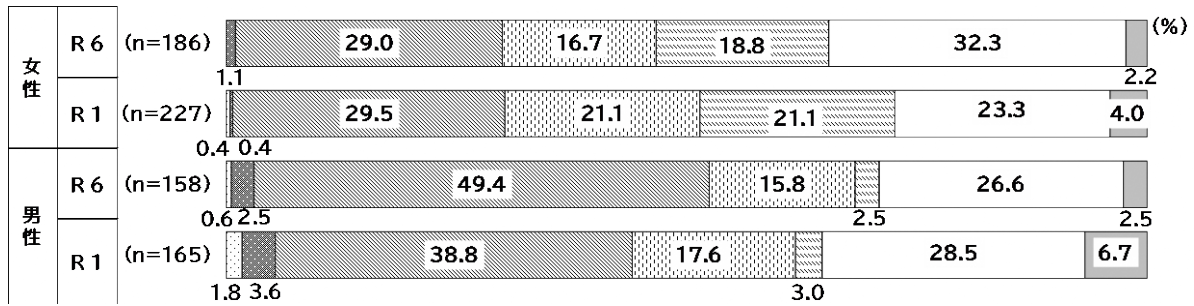
(8) 育児 (乳幼児の世話)



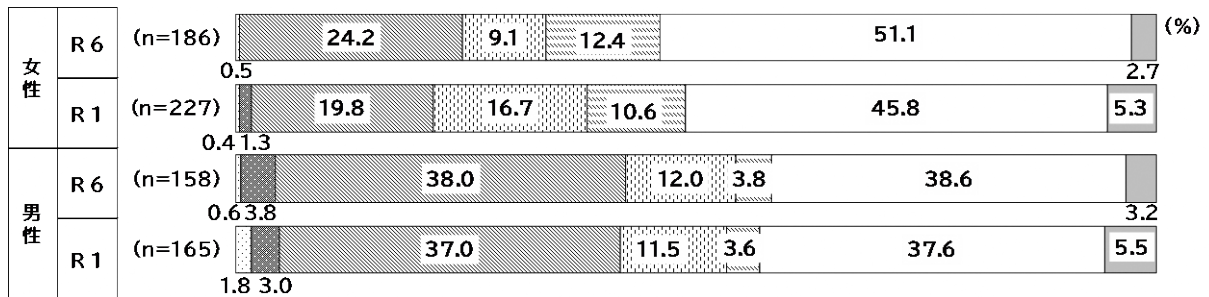
(9) 子どものしつけ



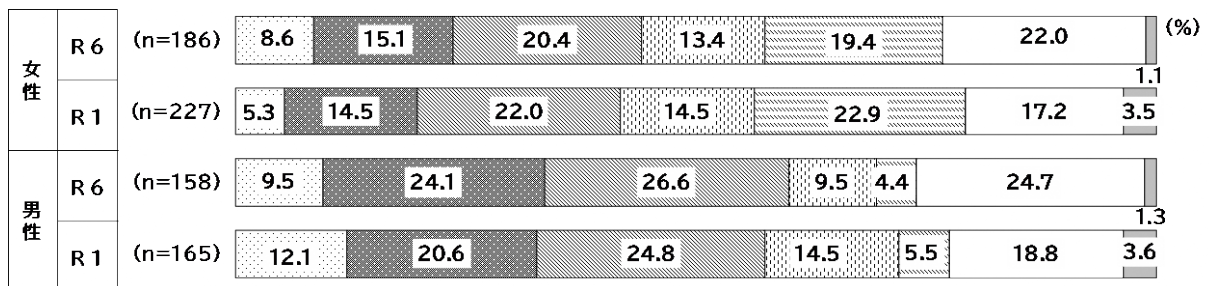
(10) 子どもの教育



(11) 老親の介護・看護



(12) 自治会等地域でのつきあい



(2) 日常生活での悩みや不安について

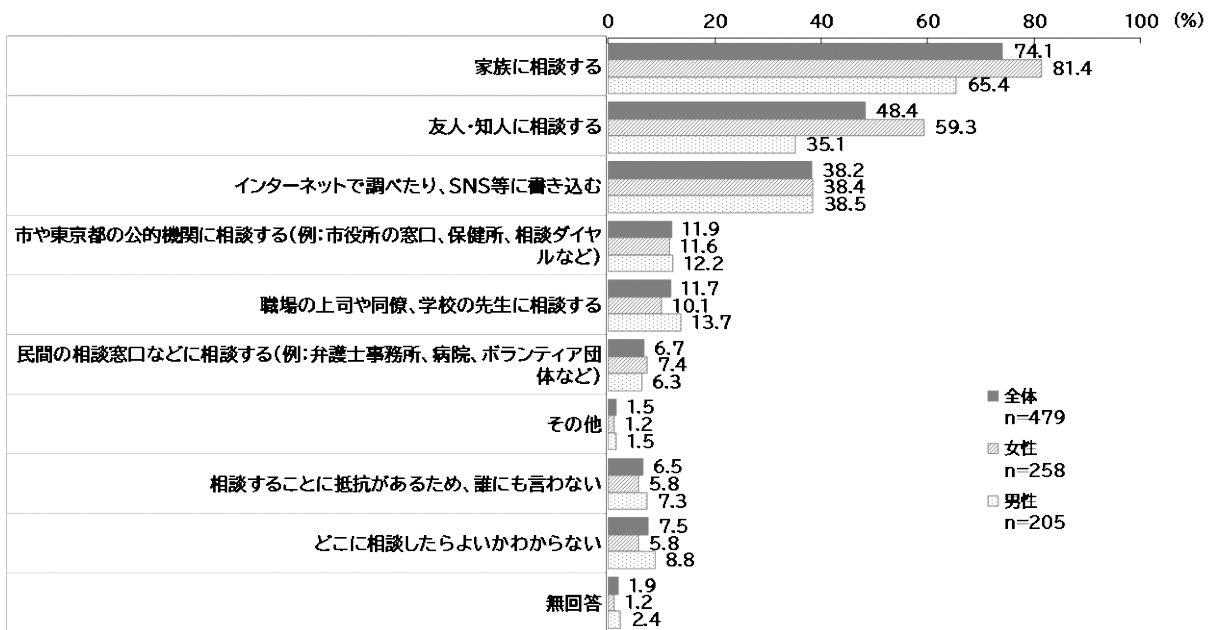
問12

日常生活の中での悩みや不安、困難な問題を抱えたときにどのように対応しますか。
(○はいくつでも)

「家族に相談する」が7割台半ば近く(74.1%)で最も多く、次いで「友人・知人に相談する」が5割近く(48.4%)、「インターネットで調べたり、SNS等書き込む」が4割近く(38.2%)となっている。

性別にみると、上位2項目の「家族に相談する」と「友人・知人に相談する」は、女性の回答率が男性より高く、「家族に相談する」では16ポイント、「友人・知人に相談する」では約24ポイントの差がみられる。男性の場合は「家族に相談する」が、6割台半ば(65.4%)で最も回答率が高いが、「相談することに抵抗があるため、誰にも言わない」と「どこに相談したらよいかわからない」における回答率が、女性よりも若干高くなっている。

図4-2 日常生活での悩みや不安の相談先【全体・性別】



◆その他の意見

- ・自己決定し行動、自力で解決(2)
- ・インターネットで調べる(1)
- ・気を紛らわせる(ゲームや動画で)(1)

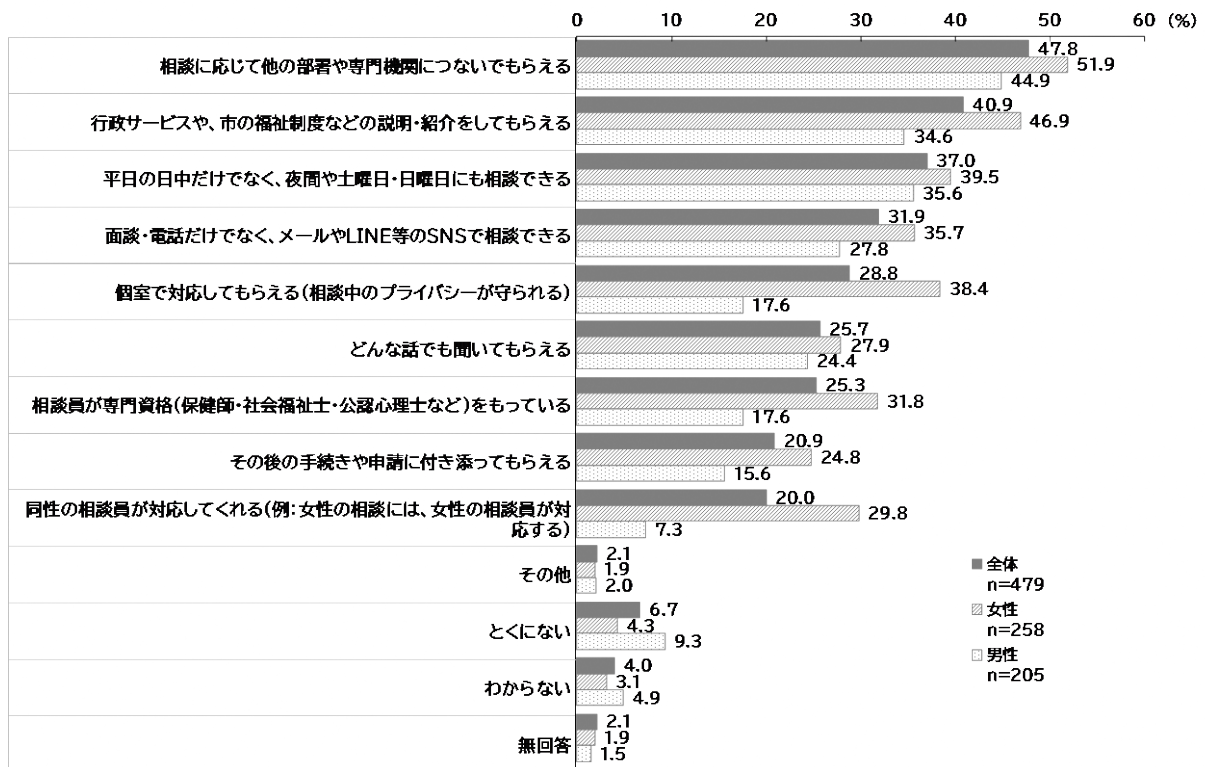
(3) 多摩市の相談窓口への要望

問13

多摩市の相談窓口に相談するとしたら、どのような点を重視しますか。
(○はいくつでも)

「相談に応じて他の部署や専門機関につないでもらえる」が4割台半ばを超え(47.8%)で最も多く、次いで「行政サービスや、市の福祉制度などの説明・紹介をしてもらえる」が約4割(40.9%)、「平日の日中だけでなく、夜間や土曜日・日曜日にも相談できる」が3割台半ばを超え(37.0%)となっている。また、いずれの項目も、女性の回答率が高く、特に「同性の相談員が対応してくれる(例:女性の相談には、女性の相談員が対応する)」は、女性と男性の回答率に約23ポイントの差がみられる。

図4-3 多摩市の相談窓口への要望【全体・性別】



◆その他の意見

- ・親切、丁寧な対応(3)
- ・相談しない(自分で解決できる、過去の対応が不満等)(3)
- ・相談部署、対応可能な相談内容が不明(2)
- ・相談所に託児サービスがある(1)

(4) 新型コロナウイルスによる影響

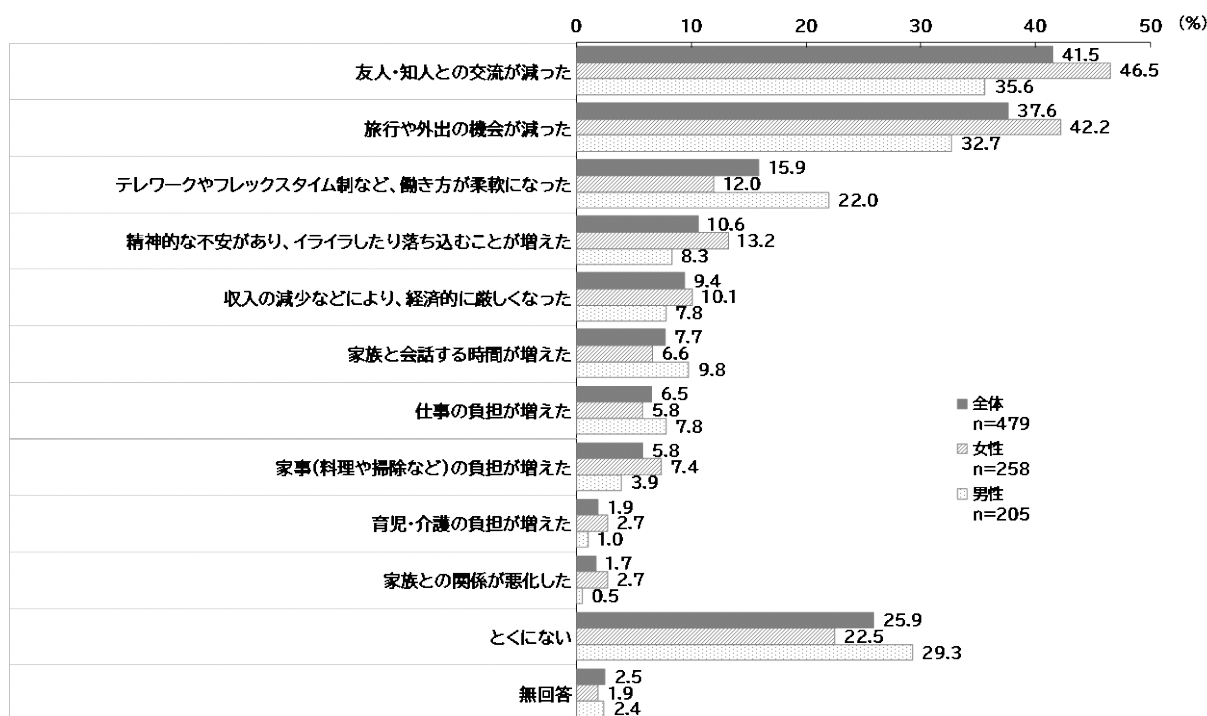
問14

あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大以降、現在の生活や行動につきのような影響が出ていますか。(〇はいくつでも)

「友人・知人との交流が減った」が4割強(41.5%)で最も多く、次いで「旅行や外出の機会が減った」が3割台半ばを超え(37.6%)、「テレワークやフレックスタイム制など、働き方が柔軟になった」が1割台半ば(15.9%)となっている。また、「とくにない」という回答が2割台半ば(25.9%)となっている。

性別にみると、「テレワークやフレックスタイム制など、働き方が柔軟になった」は、女性より男性の方が10ポイント高くなっている。加えて、上位2項目である、「友人・知人との交流が減った」と「旅行や外出の機会が減った」は、女性の方が男性より10ポイント前後高くなっている。

図4-4 新型コロナウイルスでの影響【全体・性別】



問15

コロナ禍や物価高騰、その他の社会的な影響等により、現在抱えている生活上の悩みやお困りごとについて教えてください。(自由記載)

主に以下のような回答があり、「物価高騰」についての内容が最も多い。

	分類	内容例	同様の意見
1	物価高騰	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰により今まで購入していた食材商品等が買えなくなった。更に続けばと不安もつゆり気分も落ち込む。 ・物価高騰して年金も減って、あと何年かで貯金が無くなってしまう不安がある。 	61
2	収入が上がらない、減少した	<ul style="list-style-type: none"> ・手取りが増えない。働けば働くほど税金を取られ、様々な助成が受けられなくなる。 ・物価は高いのに給与は変わらないため今まで通りの生活を送っても苦しくなる。 	19
3	年金に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> ・年金が国民年金しかもらえず、年金生活になった時が不安。 	8
4	生活費が足りない、家計が苦しい	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な困窮、先行きの不透明さによる不安や焦りが生じている。 	8
5	近所付き合い等、人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や隣人との関わりが非常に希薄になった。自治会への参加も少ない。 ・人との会話やコミュニケーションを取るのに少し神経質になった。 	8
6	学費の問題等、子どもに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学費などがかかるようになり、心配。 ・子が体調不良から不登校になっているが、進路に関する情報が十分得られず不安。 	8
7	やりたい仕事ができない等、仕事の悩み	<ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭での就職の難しさに困っている。 	3
8	少子高齢化による老老介護問題等、身内の世話	<ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要な母がいるが、要介護度が上がってきたときにやっていけるか不安。 	2
9	健康上の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に病気になり、加療中で、治療費や通院費等出費が多く生活が厳しい。 	2